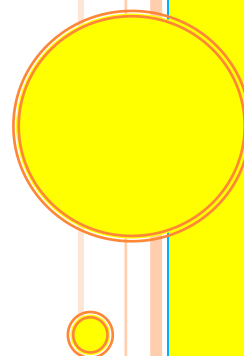


令和元年度

南部町教育委員会の事務の 点検及び評価報告書

《 平成30年度実績 》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育に関する事務が南部町教育施策の方針に基づいて適切に実施されているか点検するとともに、その成果及び課題等について自ら評価し報告するものです。



目 次

○まえがき	P. 2
○点検・評価アドバイザーによる意見	P. 3～7
○点検及び評価の概要	P. 8
○事務事業の点検及び評価とは	P. 9
○南部町教育方針	P. 10～14
1. 学校教育指導の方針と重点	P. 11～13
2. 社会教育指導の方針と重点	P. 13
3. 文化財保護行政の方針と重点	P. 14
4. 学校給食重点目標	P. 14
○教育委員会事務の点検及び評価に関する事務事業一覧表・・・	P. 15～17
○事業毎個別評価の観点	P. 18
○事業毎個別評価表	P. 19～16
○教育委員会活動の状況	P. 57～59
1. 教育委員会委員構成	P. 57
2. 教育委員会の活動概要	P. 57～58
3. 教育委員会会議	P. 59～60
○教育委員会事務局の組織の状況	P. 61～65
1. 教育委員会機構図	P. 61
2. 教育委員会事務分掌	P. 62～64
3. 教育関係予算の状況(決算)	P. 65
○町立小・中学校の「特色ある学校経営事業」の目的と実績・・・	P. 66～77

令和元年度

南部町教育委員会の事務の点検及び評価報告書

《 平成30年度実績 》

◆ まえがき

南部町教育委員会では、「豊かで潤いのある生涯学習社会の形成に向けて、心身ともに健康で豊かな情操と優れた創造力、たくましい実践力を持ち、郷土の発展につくす人材の育成」に努め、学習環境の整備に取り組んでいます。

こうした取り組みは、これまでも広報誌などを通じて町民の皆様にお知らせしてきたところですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に報告するとともに、町ホームページに掲載し公表をしております。

このため、南部町教育委員会では、今後の効率的で効果的な教育行政を推進し、町民の皆様へ説明責任を果たすことを目的に、外部の学識経験者2名の方々にアドバイザーになっていただき、意見を伺いながら、教育委員会の事務の点検及び評価を実施し、このたび、その結果を報告書としてまとめました。

南部町教育委員会では、今後も「個性を活かし生きる力と学ぶ力や夢をはぐくむ学校教育の推進」「生きがいのある人生と、豊かで住み良い地域社会を実現する社会教育の推進」「未来へ伝える貴重な文化財の保存・活用」を目指し、地域の伝統と特性を生かした教育行政の推進に努めて参りますので、町民の皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年10月

南部町教育委員会

平成30年度の教育委員会の事務事業について、5回にわたり各担当者とのヒアリングを実施し点検し、評価を頂きました。

総評として、両アドバイザーから、つぎの様なご意見を頂きました。

点検・評価アドバイザーによる意見（平成30年度分）

南部町教育委員会が、豊かで潤いのある生涯学習の形成と一人一人の個性を活かすまちづくりに向け、「心身ともに健康で豊かな情操とすぐれた創造力、たくましい実践力を持ち、郷土の発展に尽くす人材の育成」に努める方針のもと、各学校・団体、関係機関と連携をとりながら、学校教育・社会教育に係る56の事業を推進・継承し、適切な効果を上げておられますことに心から敬意を表します。

明日を担う人づくり・豊かなまちづくりの推進と教育行政の更なる向上・発展を願い、微力ですが意見を述べさせていただきます。

1. 学校教育について

(1) スクールサポーター支援員配置事業について

スクールサポーターが町内全校に配置され、増員の措置も行われる等、教育活動推進に大変寄与しています。特別な支援を必要とする児童生徒は今後も増える予想されますので、今後も継続しながら、学校規模及び必要な人員に対応できるよう配慮してくださることをお願いします。

(2) 小学生国内交流事業について

両町の歴史的な繋がりと愛郷心、たくましく豊かな心を育む上、大切な事業だと認識しています。ただ、交流内容が毎年担当町任せになっていることが少し気になっていました。参加者アンケートや教委の担当者同士の緊密な連携等をもとに、一層充実した交流が行われることを期待します。

(3) 教育支援委員会事業

幼児・児童生徒の適正な就学のために重要な事業ですが、対象となる子供が増加傾向で、その分専門的な調査・検査を担当する教員の負担が増えています。今後、新たな検査方法が導入される見込みなので、専門の検査員の委託・研修を進めていただくことをぜひお願いします。

(4) 外国語指導助手派遣事業

ALTを3名体制にしたことを評価しています。ただ、令和2年度から小学校外国語科が週2時間実施となつて教員の負担が増すので、ALTの勤務時間も増やしていただければありがたいです。また、ALT活用研修会は授業等到大変役立っているので今後も継続するとともに、指導上の課題を集約して解決を図るための研修も行つて、教員の指導力向上を図っていただきたいと思います。

(5) 教職員研修事業

新採用者のみの実施ですが、南部町に対する愛着感啓発、指導観の拡大、社会教育事業周知・活用のためにも、南部町が初めての赴任者に対して、年度始めにこだわらず研修会を実施してはどうでしょうか。

2. 社会教育について

(1) まべち笑楽校

高齢者の学習機会を設定し、充実した学習内容・楽しく積極的な雰囲気での学習活動が行われ、高齢者の生きがいづくりになっていることは、とても望ましいことだと思います。今後も参加者の和を広げ、多くの高齢者が生きがいをもって過ごせる一助にしていきたいと思います。

(2) 学校と地域ネット推進事業

地域にいたる専門家・愛好家の指導により、児童生徒は本物の体験や継承活動、地域の良さを体感でき、とても効果の高い事業です。指導者の高齢化という心配もありますが、世代交代や新規専門家の育成・発掘等、関係部署や地域と連携して、今後も多様な体験・講師派遣を進めていきたいと思います。

(3) 南部町文化賞・スポーツ賞表彰式

体育協会の表彰と併せて、これほど大きな表彰式は見たことがありません。町民及び児童・生徒にとって大きな励みとなる事業だと思いますので、今後もぜひ継続していただくことを希望します。

3. 文化財保護行政について

(1) 南部学研究会・史跡聖寿寺館跡整備事業・(南部ふるさと塾)

南部ふるさと塾と南部学研究会、そして、聖寿寺館跡の整備は、南部町の歴史や文化の探究・解明を進め、ますますその価値を高めています。今後も専門家や関係機関との連携を密にしながら、町及び町民の誇れる事業・場として、積極的に発信を続け、歴史と伝統ある南部町の名を高めてほしいと思います。

(2) 奥州街道の整備・活用・普及事業

奥州街道の整備・活用は、聖寿寺のそれより遅れていると感じます。ウォークも町内4小学校のみなので、他の小学校への普及や一般の方のウォーク体験実施等、今後事業の幅を拡げられることを希望します。

(3) 史跡聖寿寺館跡の活用(見学・体験発掘・出前授業等)

聖寿寺館跡の発掘体験は、郷土の歴史学習の意義として効果が高いので、未参加の学校にも啓発し、体験させてほしいと思います。

4. 社会教育(公民館)について

(1) 英会話教室(初級)

外国人講師に学ぶ英会話は貴重です。簡単な日常会話を始めとする学習内容・方法を工夫すると共に、講師との打合せ・参加者の増加対策に力を入れて運営していただきたいと思います。

(2) ニューススポーツ in スクール・ニューススポーツ移動教室

ニューススポーツの楽しさは、実際に体験してみないと分かりません。クラブ活動での普及を中心としながらも、町内の全小中学校に広報・啓発を図り、幅広く普及させていくのもいいのではないかと考えています。学校への普及が図られれば、移動教室の需要も相乗効果で高まっていくと思います。

5. 学校給食について

(1)児童生徒の心身の望ましい成長のために、学校給食の果たす役割と食育はとても重要です。その中で給食センターでは、食中毒防止のための衛生管理・学校給食摂取基準に基づいた献立作成・手作り感のある給食提供・地元の産物活用や伝統食の導入・食育授業を重点にして、給食センターの運営や栄養バランスのとれた給食・食生活のために努力していただき、感謝しています。

今後は、料理の色合いの一層の工夫、伝統食の更なる紹介や季節・行事に合わせた献立の工夫、バイキング式給食の継続、地元産物の積極的活用と地域との連携に努めながら、ますます児童生徒に喜ばれるおいしい給食を目指して尽力していただければありがたいと思います。

色々意見を述べさせていただきましたが、平成30年度の事業が教育委員会の皆様並びに関係機関の方々の並々ならぬ努力によって推進されてきたこと、そして、限られた予算の中で改善を図りながら効果的に事業を展開されてきたことに謝意を申し上げるとともに、南部町の教育行政の益々の発展を願って、結びとします。

令和元年10月15日

南部町教育委員会の事務の点検・評価アドバイザー

芦 名 均

点検・評価アドバイザーによる意見（平成30年度分）

教育委員会の学校教育・社会教育の事務分掌からなる事業は、多岐にわたり行われております。小中学校の児童生徒の「資質向上」「心の豊かさを高める」ための事業、歴史、文化と伝統芸能を次世代へ継承させる事業、住民の学習とスポーツによる生きがいと健康を目的とする事業などによりそれぞれの効果が期待されます。

その事業を担う職員の努力に敬服します。学校教育、社会教育の向上形成にさらなるご尽力をお願いいたします。

次の項目について、意見を申し述べます。

1. 学校教育指導の方針

スクールサポーター支援員配置事業については、スクールサポーターが3名増員になり、小中学校で細やかな授業が行なわれ全児童生徒が授業や諸活動に集中することができています。また、学校担任教諭の支援にもなっています。今後とも、サポーターによる児童生徒の生活・学習の支援相談活動を必要とする学校に対応出来るよう人員配置に努めて下さい。

スクールカウンセラー配置事業は、青森県の事業となっていますが、県では小中学校で相談があれば、速やかに対応しているようです。学校からのいじめ、不登校の相談があれば、県と連携を密にして事業を進めていって下さい。

教育支援委員会事業では、各学校において保護者等への就学支援、相談業務が円滑に行なわれているようです。ただ、対象となる子どもが増えている傾向にあることから、専門的調査や検査行なう人を増員し、さらなる調査・検査の充実を図るように努めて下さい。

学校の芸術文化活動事業では、昨年度は南部中学校の巡回事業「歌舞伎・能楽」の公演がありましたが、今年度は要望が無かったようです。芸術文化の鑑賞・体験は児童生徒たちには貴重な経験となり、色々な体験をすることで、心の豊かさを持つことが出来ると思います。このため小中学校に周知し、今後とも事業を続けることを希望します。

学校施設管理において、築25年以上を経過した学校施設12校のうち8校あるという。児童生徒の安全・健全な学校生活環境を保つためには施設の改修は必要と思います。財源を有効に計画的な改修を順次進めてください。

奨学金貸付事業は、経済上の理由で高等学校以上の就学に付けない有能な人材に資金を貸し付ける事業で有効ですが、資金の滞納が減らない状況にあり資金返還の対策に苦慮しているようです。今回、返還方法の見直しを行なうなど滞納額を減らすための努力が見られました。今後とも滞納が減少されるようご努力をお願いいたします。

外国語指導助手派遣事業では、「ALT」1名を増員し、小学校の外国語教育の2020年度全面実施に向け、小学校教諭の研修、授業の進め方などの活動を行なっています。今後も、小中学校における児童生徒の英語能力、関心を高めさせ、また、小学校教諭の英語指導向上に向け「ALT」研修の充実を図って下さい。

2. 社会教育指導の方針（公民館関係）

各種講座により、児童生徒・一般市民の芸術文化の継承、趣味の拡充、参加した方々の交流を深め、また、生きる力も見出しているようです。

「まべち笑楽校」では60歳以上の生徒が10科目を学習し、「多くの人を知り得た」「楽しかった」と好評のようです。高齢者の生きがいづくりに一躍担っています。今後とも引き続き行なっていただきたい事業と考えています。

「南部ふるさと塾」は、県内外を問わず他県からも参加しています。新規参加者が増えるなど人気を博しています。今後とも期待する事業です。

「青年教室」においては、若者が少なく、仕事の都合で参加出来ないなど、活発な活動が見受けられず、町内の青年組織団体などの連携も弱いと感じられます。このため、青年の自発的な活動の取り組みを望みます。

3. 文化財保護行政の方針

史跡聖寿寺館跡の発掘調査により、南部町は全国的に知られるようになり、南部藩の歴史に関心を持つ人が多くなってきている。その現われとして、「ふるさと塾」「南部学研究会」が開催されるごとに参加者が増えています。

昨年度、南部町の歴史を全国的に情報発信する拠点の史跡聖寿寺館跡案内所がオープンし、管理・運営は案内所施設職員が行ない、遺物の整備、展示室への案内など情報発信の実務を行なうようになりました。そして、令和元年度から史跡ガイドが配置されることになっています。史跡聖寿寺館跡の整備は順調に進んでいるようです。

また、伝統芸能を次世代へ継承する団体「郷土芸能保存会」の努力により、後継者が育ちつつあるようです。多くの後継者が育つように、保存会への助成の継続を希望します。

4. 社会教育指導の方針（体育館関係）

「町民運動会」「町民歩け歩け運動大会」「総合優勝制スポーツ大会」では、町民の健康促進が高められ、また町内相互の親睦が深められています。大会の種目や散策コースなどの決定については、町民の意見を取り入れるなど町民に関心を持たせた事業を行っています。今後も継続を望みます。

今年から、体育館関係の事業の一部を「一般社団法人型クラブななっち」に業務委託しています。事業の事務引継は委託者と綿密に行なったと思いますが、委託者への事務事業の指導監督は怠りなく行なうことが必要と考えられます。

5. 社会教育指導の方針（B & G 海洋センター関係）

児童生徒の水に親しみ、水に対する自助、水泳力の向上、また水の生物の研究により自然環境保護の意識を高めるなど、多種にわたり事業を行っています。

介護サービスを受けていない高齢者を対象にした「転倒・寝たきり予防」は、町内3ヶ所で開催されており、それぞれの地域から参加しやすい事業になっています。今回、青森県カスタム・メイド講座を活用したメニューを取り入れたところ参加者に好評で、来年度も県に依頼していく予定である。参加者が自身の体の状態を知り、健康を保つためにも続けて欲しい事業です。

駅伝競走など走る競技大会においては、着実に事業の成果が現われているようです。県民駅伝では町の援助もあり、毎年上位入賞しています。町内駅伝競走は児童生徒の減少もあり、チーム数が若干少なくなったようですが大会は活発になっています。

岩手県山田町の小学生とのマリンスポーツ交流については、山田町は東日本大震災の津波被害から復興中ですが、山田町・南部町の両町の小学生の交流は心通うものとなっています。心のふれあいも大切です。今後とも続けていくことを希望します。

6. 学校給食の重点

安全で衛生、栄養バランスがとれた学校給食を提供するため日々工夫と努力を重ねており、児童生徒には食育授業による栄養指導を行い、食生活のバランスを取ることの大切さを教えています。また、センターにおいて調理従事者の徹底した衛生管理体制を厳しく行っています。

今後も、地元食材を使用するなど食材に工夫しながら、安心、安全でおいしい給食を提供していくことを願います。

教育委員会の職員の皆様、切磋琢磨に事業を遂行されていることに敬意を表します。

今後も、各種事業により、児童生徒及び一般町民のそれぞれの心のふれあう、健康で生きがいのある社会づくり、そして文化と伝統芸能の次世代への継承が行なわれていくことを期待します。

令和元年10月15日

南部町教育委員会の事務の点検・評価アドバイザー

工 藤 満

点検及び評価の概要

1 経 緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律(平成19年法律第97号)により、平成20年4月1日から、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出、公表することとされました。

2 点検・評価の対象

南部町教育方針にある教育施策の重点に即して行われた事業

3 点検・評価の方法〈内部評価〉

(1) 事業担当部署による点検及び評価

- ・ 各事業担当部署が実施状況をまとめて評価

(2) 教育委員会による点検及び評価

- ・ 各事業担当部署が評価したものを、事業の妥当性について評価

4 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、学識経験者等を「点検・評価アドバイザー」として委嘱し、点検・評価の実施方法や内容について意見をいただいております。

5 点検・評価アドバイザー

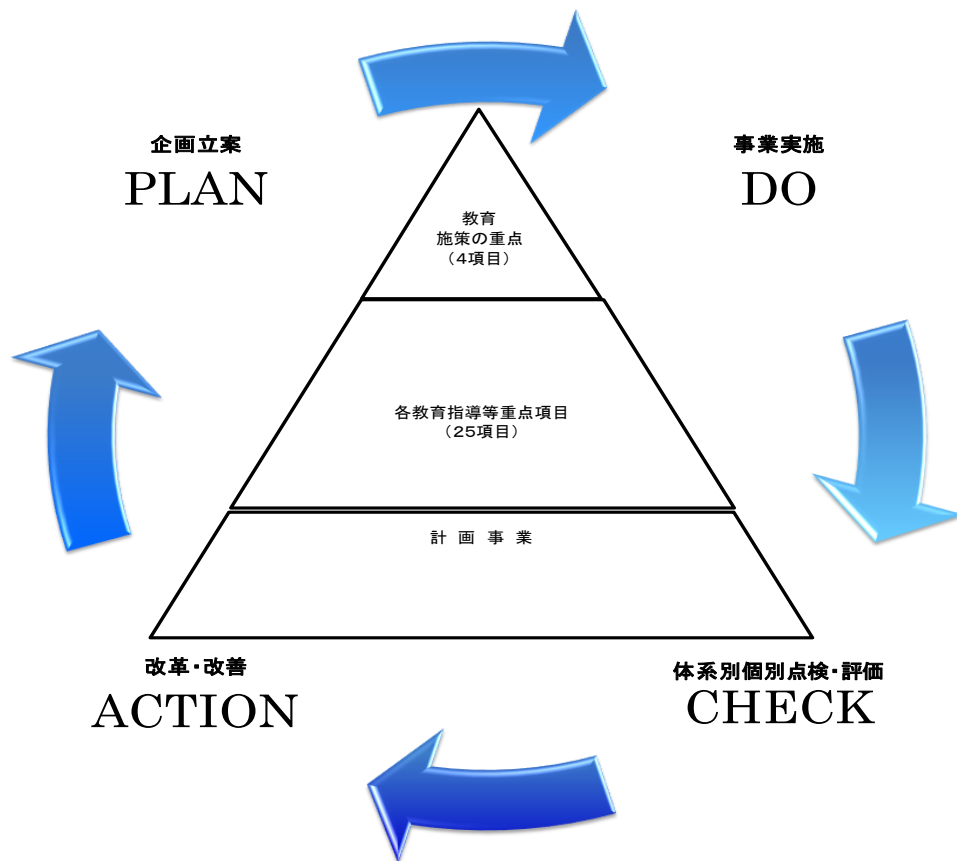
氏 名	団 体 ・ 役 歴
芦 名 均 氏	元南部町立向小学校長
工 藤 満 氏	元南部町教育委員会・名川B&G海洋センター所長

(1) 点検・評価アドバイザー会議の開催状況

- ・ 第1回会議 令和元年 8月30日開催
- ・ 第2回会議 令和元年 9月12日開催
- ・ 第3回会議 令和元年 9月20日開催
- ・ 第4回会議 令和元年 9月27日開催
- ・ 第5回会議 令和元年10月15日開催

事務事業の点検及び評価とは

事務事業の評価は、教育委員会が行っている事業について、点検と評価を行い、必要に応じて事業の取り組み方法等を見直して、今後の仕事の取組みにいかしていくものです。



事務事業の企画立案(PPLAN)、事業実施(DO)、点検・評価(CHECK)、改革・改善(ACTION)を継続して行うことで、より効果的で質の高い事務事業の実現を図っていきます。

南部町教育方針

◇ 基本理念

教育は人づくり、明日を担う人を育て一人一人の個性を活かすまちづくり

◇ 基本方針

南部町教育委員会は、青森県教育委員会及び三八教育事務所、関係機関、諸団体との連携を図り、豊かで潤いのある生涯学習社会の形成に向けて、「心身ともに健康で豊かな情操とすぐれた創造力、たくましい実践力を持ち、郷土の発展につくす人材の育成」に努める。

◇ 教育目標

1. 町民の連携意識を高めながら、豊かな心と広い視野を持ち、誇りと愛着を持って郷土の発展に貢献することのできる品性豊かな町民の育成に努める。
2. 社会の変化に対応しながら、自分の目標を持ち、豊かな情操と創造力・実践力を磨きながら生涯学び続け、積極的に社会参加のできる町民の育成に努める。
3. スポーツに親しみながら、自分の体力と健康に関心を持ち、自主的に健康で安全な生活を営むことのできる町民の育成に努める。

◇ 教育施策の重点

1. 学校教育においては、主体的な学習態度を育て、基礎的・基本的な知識や技能を習得させ思考力、判断力、表現力などを育み、夢や志の実現に向けた教育を推進する。
また、町内小中学校へは「特色ある学校づくり」のために町独自の支援を継続する。
2. 社会教育においては、学校と地域の協働による教育活動と家庭教育の充実に努める。また、文化活動においては、芸術文化活動の奨励や育成を図るとともに伝統文化の継承育成や未来に伝える貴重な文化財の保存・活用に努める。
3. 社会体育においては、スポーツ活動の振興やニュースポーツの普及と実践化を図るとともに、日常生活での体力づくりを推進する。

【学校教育指導の方針と重点】

1. 方 針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く幼児児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に創意工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育の推進に努める。

2. 重 点

(1) 授業の充実

一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において、主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア 主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画等の整備

イ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に向けた教材の工夫と教材研究の深化

ウ 個に応じた学習過程と評価を重視した指導の工夫

エ 各教科等の特質に応じた体験活動や問題解決的な学習を重視した指導の工夫

オ 学校図書室やＩＣＴなどを活用した子どもの学びを支援する学習環境の充実

(2) 道徳教育の充実

一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他の社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、全教育活動を通じて道徳性の育成に努める。

ア 道徳教育を推進する指導体制と全体計画の整備・充実

イ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫

ウ 郷土を愛する心を育む指導の充実

(3) 特別活動の充実

一人一人の子どもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の問題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。

ア 自主的な態度を育てる学級活動・ホームルーム活動の工夫

イ 自治的な意識を高める児童会活動・生徒会活動の工夫

ウ 児童の個性の伸長と触れ合いを深めるクラブ活動の工夫

エ 集団への所属感や連帯感を深める学校行事の工夫

(4) 体育、健康教育の充実

一人一人の子どもが、生涯にわたって自ら進んで運動に親しみ、健康で安全な活力のある生活と豊かなスポーツライフを送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。

ア 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実

イ 健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実

ウ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実

エ 安全に関する情報を正しく判断し、安全を確保することができる指導の充実

(5) 生徒指導の充実

一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。

ア 基本的な生活習慣や自己指導能力を育成する協働的な指導体制の充実

- イ 生徒指導の機能を生かした学年・学級・ホームルーム経営の充実
- ウ 児童理解・生徒理解に基づいた教育相談の充実
- エ いじめの積極的な認知と組織的な対応の徹底

(6) キャリア教育の推進

一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力、態度の育成に努める。

- ア キャリア教育指導体制の整備・充実
- イ 現在及び将来の生き方を考える指導・進路指導の充実
- ウ 児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成

(7) 特別支援教育の充実

発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

- ア 校内支援体制の充実
- イ 個別の指導計画の作成と活用による指導の充実
- ウ 個別の教育支援計画の作成と活用による関係機関と連携した支援の充実
- エ 交流及び共同学習による相互理解の促進

(8) 環境教育の推進

一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。

- ア 教科等間の関連を踏まえた指導の工夫
- イ 地域の環境の実態に即した指導の工夫
- ウ 環境にかかわる体験活動の充実

(9) 国際化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。

- ア 郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進
- イ 外国語教育の充実による、外国語を通じたコミュニケーション能力の育成
- ウ 異なった文化や習慣をもつ人々との交流の推進

(10) 情報化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、情報モラルを含む情報活用能力を身に付けることができるよう、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。

- ア 情報教育を推進する指導体制の整備・充実
- イ 学習指導におけるICTの適切な活用の推進
- ウ 情報通信ネットワーク等を適切に活用した教育の推進
- エ 家庭や地域社会と連携した情報モラルに関する指導の充実

(11) 研修の充実

教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。

- ア 教員等の資質の向上に関する指標を踏まえた研修の推進
- イ 日常的に学び合い、指導力を高め合う校内研修体制の整備・充実
- ウ 教育要領・学習指導要領に基づく実践的研究の充実
- エ 学校の教育課題解決のための実践的研究の充実
- オ 家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の研究・推進

(12) 複式教育の充実

少人数の特性を生かし、一人一人の個性・能力の伸長を図るとともに、社会性の育成に努める。

- ア 学校運営・学級運営の創意工夫
- イ 複式指導の充実

(13) 幼児教育の推進

一人一人の子どもに質の高い幼児教育の提供を目指し、関係機関等との連携を図りながら、提供体制の推進に努める。

- ア 幼保小連携体制の充実
- イ 質の高い幼児教育のための研究・推進

(14) 教育環境の充実

一人一人の子どもが、安全・安心な学校生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、教育環境の充実に努める。

- ア 学校施設の整備・充実
- イ 教育環境の研究・整備

【社会教育指導の方針と重点】

1. 方 針

社会の変化に対応しながら、ライフステージに応じて、自己の啓発・向上をめざし、生きがいのある人生と豊かで住みよい地域社会を実現する社会教育の推進に努める。

2. 重 点

(1) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係団体等への活動支援

(2) 学校・家庭・地域との連携及び協働による推進

- ア 学校と地域との協働による教育活動の推進
- イ 家庭教育支援及び学習活動の充実
- ウ キャリア教育の推進

(3) 多様な学習機会の拡充

- ア 青少年の豊かな人間性を育む学習活動の推進
- イ 自主的な学習活動の支援と体制整備
- ウ 読書活動の推進

(4) 多様な生涯スポーツの振興

- ア 社会体育施設の整備と充実及び活用促進
- イ スポーツ・レクリエーション指導者の養成と活用促進
- ウ スポーツ・レクリエーション活動の普及促進
- エ スポーツ関係団体の育成と活動の推進

【文化財保護行政の方針と重点】

1. 方 針

郷土に対する愛着と誇りを培い、うるおいのある町民生活を実現するため、未来へ伝える貴重な文化財の保存及び活用に努める。

2. 重 点

(1) 文化財の保護及び保存

- ア 国・県及び町の文化財指定の推進
- イ 指定文化財の保存及び防災等の支援
- ウ 文化財保護意識の普及及び啓発
- エ 国指定重要文化財「南部利康霊屋」及び国指定史跡「聖寿寺館跡」の保存管理
- オ 国登録有形文化財の保存支援

(2) 文化財の整備及び活用

- ア 国・県及び町指定文化財の情報発信の推進
- イ 史跡聖寿寺館跡の公有化及び発掘調査・整備と活用の推進
- ウ 南部氏関連史跡・文化財等の調査及び研究の推進

(3) 伝統芸能及び技術の継承

- ア 伝統芸能の保存及び後継者の育成支援
- イ 伝統芸能の発表機会の充実
- ウ 子どもの伝統芸能伝承活動の推進

【学校給食重点目標】

- (1) より安全・安心のおいしい給食を目指します。
- (2) 栄養バランスのとれた食事内容の充実をはかります。
- (3) 手作りの給食を心がけます。
- (4) 伝統食、郷土食を取り入れ、季節感を大切にします。
- (5) 地元の産物を活用しながら、地域との連携を大切にします。

教育委員会事務事業一覧

◇学校教育指導の重点との関連

番号	事務事業名	ページ	担当課・所
1	スクールサポーター支援員配置事業	19	学務課
2	スクールカウンセラー配置事業	19	〃
3	小学生国内交流事業	20	〃
4	教育支援委員会事業	20	〃
5	就学援助事業	21	〃
6	学校の芸術文化活動事業	22	〃
7	学校施設管理事業	22	〃
8	奨学金貸付事業	23	〃
9	特別支援教育就学奨励費補助事業	23	〃
10	中学生海外派遣事業	24	〃
11	外国語指導助手派遣事業(旧:語学指導外国語青年招致事業)	24	〃
12	教職員研修事業	25	〃
13	幼稚園就園奨励費補助事業	25	〃

◇社会教育指導の重点との関連

番号	事務事業名	ページ	担当課・所
14	家庭教育講座(おもしろ体験教室)	26	社会教育課
15	青年教室	26	〃
16	まべち笑楽校	27	〃
17	南部ふるさと塾	28	〃
18	学校と地域ネット推進事業	29	〃
19	平成31年南部町成人式	30	〃
20	南部町文化賞・スポーツ賞表彰式	31	〃
21	南部七唄七踊り実行委員会補助金事業	31	〃

◇文化財保護行政の重点との関連

番号	事 務 事 業 名	ページ	担当課・所
22	文化財審議委員会議・文化財保存事業	32	社会教育課・ 史跡対策室
23	町内文化財パトロール事業	32	〃
24	南部学研究会	33	〃
25	奥州街道の整備・活用・普及事業	34	〃
26	国指定重要文化財『南部利康霊屋』の保存管理・公開活用	34	〃
27	史跡聖寿寺館跡調査整備委員会	35	〃
28	史跡聖寿寺館跡土地公有化事業	35	〃
29	史跡聖寿寺館跡整備事業	36	〃
30	史跡聖寿寺館跡の発掘調査	37	〃
31	史跡聖寿寺館跡の活用(見学・体験発掘・出前授業等)	38	〃
32	史跡聖寿寺館跡案内所の運営・管理	39	〃
33	伝統芸能・技術の継承事業	39	〃

◇社会教育指導の重点との関連

番号	事 務 事 業 名	ページ	担当課・所
34	趣味の教室	40	公民館
35	アロマフィットネス講座	40	〃
36	英会話教室(初級)	41	〃
37	ルーシーダットン教室	41	〃
38	第12回町民運動会	42	体育館
39	第13回町民歩け歩け運動大会	42	〃
40	第8回総合優勝制スポーツ大会	43	〃
41	ニューススポーツinスクール	44	〃
42	ニューススポーツ移動教室	45	〃

番号	事務事業名	ページ	担当課・所
43	転倒・寝たきり予防教室	46	B&G 海洋センター
44	水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム	47	〃
45	B&G全国ジュニア水泳競技大会出場推進事業	48	〃
46	B&Gスポーツ大会青森県大会推進事業	48	〃
47	小学校水泳教室	49	〃
48	第5回南部町駅伝競走大会	50	〃
49	第26回青森県民駅伝競走大会実行委員会補助金事業	51	〃
50	岩手県山田町マリンスポーツ体験交流会	52	〃
51	第34回うぐいすマラソン大会	53	〃

◇学校給食の重点目標

番号	事務事業名	ページ	担当課・所
52	より安全・安心のおいしい給食を目指します。	54	学校給食 センター
53	栄養バランスのとれた食事内容の充実をはかります。	54	〃
54	手作りの給食を心がけます。	55	〃
55	伝統食、郷土食を取り入れ、季節感を大切にします。	55	〃
56	地元の産物を活用しながら、地域との連携を大切にします。	56	〃

事業毎個別評価の観点

1. 事業の評価

事務事業の実績の評価は、南部町の教育の施策に基づいて、各事務事業の担当者が事務事業評価表を作成することにより行われます。評価の基準となる項目は、計画性・効率性・効果性・妥当性の4項目で検討され、次表の3段階で評価します。

- ・**計画性**：事業を必要とする社会的ニーズ、事業の進捗状況および終期の設定など事務事業が計画的に取り組まれているかを評価します。
- ・**効率性**：コストの節減効果、一人当たりの事業費の高低、類似事業との比較などにより効率性を評価します。
- ・**効果性**：総合計画実現への効果、目標とする成果に対する達成度を、経年的に把握することや、事業に対する町民のニーズ、計画段階からの町民参画、町民との協働など、町民の視点に立った事業となっているかを評価します。
- ・**妥当性**：町が実施主体になるべき事業か、他の事業と併せて実施することができないかなど、事務事業実施の妥当性を評価します。

項 目	目標達成度	効果性に対し
評価が高い事業	◎(期待どおり)	80%以上
評価が中位の事業	○(ほぼ達成)	60～80%
評価が低い事業	△(期待以下)	60%以下

2. 総合評価

総合評価は、1の「事業の評価」を踏まえ事務事業毎に今後の方向性を検討しています。

拡 充	対象の拡大や手段の充実により事業を拡充し、さらに成果の向上を図る。	A
継 続	現状の状態で成果があがっているため、効率化に努めながら事業を継続する。	B
改善・縮小	対象や手段の変更、手段の絞り込み等により見直しを図り、事業の適性化・コスト削減また成果の向上を図る。	C
統合あるいは 休止・廃止	事業目的の意義の低下または社会情勢の変化により、事業を一時的に休止・廃止するもの。または、目的が関連・類似する他の事業への整理・統合するもの。	D

スクールサポーター支援員配置事業		事業の評価 ◎										
(1)授業の充実		総合評価 B										
概要	教育上特別な支援を必要とする、あるいは不安を抱える児童生徒に対し、学校生活上の支援や学習活動上の支援、相談活動などを行う支援員を小・中学校に配置する。											
実績	小中学校の通常学級に在籍する多動傾向や介助を必要とする児童生徒に、学級担任教諭を支援する目的として各校に1～2名ずつ配置し、年間で950時間程度の設定。 <table border="1"> <tr> <td>配置校</td><td colspan="2">全12校 (小学校10名・中学校5名)</td></tr> <tr> <td rowspan="3">事業費</td><td>小学校配置10名</td><td>11,092千円</td></tr> <tr> <td>中学校配置5名</td><td>4,943千円</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>16,035千円</td></tr> </table>		配置校	全12校 (小学校10名・中学校5名)		事業費	小学校配置10名	11,092千円	中学校配置5名	4,943千円	合 計	16,035千円
配置校	全12校 (小学校10名・中学校5名)											
事業費	小学校配置10名	11,092千円										
	中学校配置5名	4,943千円										
	合 計	16,035千円										
成果	学級担任教諭との連携により、目の行き届いた指導や細やかな支援、安全への配慮ができるようになり、全児童生徒が授業や諸活動に集中できるようになった。 また、支援を要する児童生徒が多い3つの学校へ、1名多く配置することができた。											
評価と方向性	全12校に配置し、教育上特別な支援を必要とする、あるいは不安を抱える児童生徒への支援ができており、今後も継続して行く。 支援を要する児童生徒の多い学校へは、増員等の支援ができるようにしたい。											

学務課関係 No.2

スクールカウンセラー配置事業		事業の評価	◎						
(1)授業の充実、(5)生徒指導の充実		総合評価	B						
概要	学校におけるいじめや不登校児童生徒の問題行動等の対応にあたり、臨床心理に関して高度で専門的な知識経験を有するスクールカウンセラーを配置、派遣し、教育相談体制の充実を図る。(県の事業)								
実績	児童生徒へのカウンセリング、教諭及び保護者に対するカウンセリングや助言・援助を行った。 <table><tr><td>派遣校</td><td>福地中・杉沢中・名川中・南部中 福地小・福田小・剣吉小・名久井小・向小</td></tr><tr><td>配置時間</td><td>396時間／年間</td></tr><tr><td>事業費</td><td>県費負担</td></tr></table>			派遣校	福地中・杉沢中・名川中・南部中 福地小・福田小・剣吉小・名久井小・向小	配置時間	396時間／年間	事業費	県費負担
派遣校	福地中・杉沢中・名川中・南部中 福地小・福田小・剣吉小・名久井小・向小								
配置時間	396時間／年間								
事業費	県費負担								
成果	以前に比べ、少しずつではあるが自主的に相談を受ける児童生徒も増加し、有効に活用されている。 派遣校も前年より増え、児童・生徒・保護者のみならず教職員からの相談等にも対応し、効率的なカウンセリングにより成果があげられている。 また、緊急なカウンセラーの依頼への対応も、県と連携しながら行い派遣することができた。								
評価と方向性	カウンセラーは、1校に対し2～3年の継続が必要である。 県では県内全学校へのカウンセラー配置を予定しているため、次年度は町内全12校への配置を要請する。								

小学生国内交流事業		事業の評価 ◎								
(1)授業の充実、(2)道徳教育の充実、(3)特別活動の充実		総合評価 B								
概要	南部氏の縁に結ばれた山梨県南部町の児童との交流を通して、ふるさとの歴史や自然等について、理解を深めるとともに、新しい時代の主役となる児童の友情や愛郷心を育むことを目的とし、訪問地ならではの体験やゲームなどをおとして交流を深める。									
実績	平成30年度は、山梨県南部町を当町へ迎え(青森県と山梨県で隔年交互訪問)、交流ゲームやいっかだ作り・遊び、発掘体験、南部氏ゆかりの地の見学等をおとして交流を深め、両町の歴史的なつながりや町の特色についての理解を深めた。 <table><tr><td>実施時期</td><td>7/25(水)～7/27(金)</td></tr><tr><td>当町参加児童</td><td>30名(5・6学年) 山梨県南部町参加児童 30名</td></tr><tr><td>事業費</td><td>457千円</td></tr><tr><td>当町参加者負担金</td><td>3千円/名(一般会計の雑入90千円)</td></tr></table>		実施時期	7/25(水)～7/27(金)	当町参加児童	30名(5・6学年) 山梨県南部町参加児童 30名	事業費	457千円	当町参加者負担金	3千円/名(一般会計の雑入90千円)
実施時期	7/25(水)～7/27(金)									
当町参加児童	30名(5・6学年) 山梨県南部町参加児童 30名									
事業費	457千円									
当町参加者負担金	3千円/名(一般会計の雑入90千円)									
成果	青森県・山梨県南部町の計60名の児童が、様々な交流活動をおとして友情を育んだ。 また、南部利康霊屋や聖寿寺館跡の見学、南部氏にまつわる歴史的な講話を聞くことで、両町のつながりについて理解を深め、愛郷心を育んだ。 事業実施後は、青森県・山梨県南部町の参加者がそれぞれ作成した、思い出の記録集を参加者全員に配布するなど、交流事業終了後も相互に親交を深めることが出来た。									
評価と方向性	両町の歴史的なつながりを理解し、また愛郷心を育むことのできる、教育的効果の高い事業であるため、今後も継続の予定である。また、児童の減少もあり参加数の見直し等、両町で検討が必要と考える。									

学務課関係 No.4

教育支援委員会事業		事業の評価 ◎
(1)授業の充実、(7)特別支援教育の充実		総合評価 B
概要	幼児及び児童生徒について、専門的調査や検査を行って、就学期間等の適切な教育措置についての判断を行う。特別の支援を要する幼児及び児童生徒の就学に係る教育相談を実施する。	
実績	○ 判断件数 幼児 16件 児童 16件 生徒 2件 計 34件	
成果	幼児及び児童生徒の検査結果により、特別の支援を要する者の保護者に対して専門的な指導、助言を行い、保護者が適正な就学先を選択することができた。 前年度より1件の増。	
評価と方向性	保育園、幼稚園、小・中学校からの相談について、専門的な調査・検査を行い、各学校において保護者等への就学支援・相談業務を円滑に実施している。しかし、対象となる子どもが増加傾向にあるため、これまで以上に学校・教育支援委員会の密な連携が必要である。 また、専門的検査が必要となるので、検査研修や検査員の委託など、今後の検査のあり方を検討する必要がある。	

就学援助事業		事業の評価 ◎												
(1)授業の充実		総合評価 B												
概要	児童生徒に対し、学用品費・修学旅行費を援助し、義務教育の円滑な実施を図る。 なお、給食費については、平成27年度から実施の給食費無料化に伴い、援助の対象から除いた。 平成30年度 認定基準 ○ 要 保 護：生活保護受給者 ○ 準要保護：次のいずれかの措置を受けた者で、前年度の所得が生活保護基準額の1.1倍以下の世帯に属する者 - 生活保護受給停止または廃止 - 世帯全員が市町村民税非課税世帯 - 世帯全員が市町村民税の全額減免 - 世帯全員が国民年金保険料を全額免除 - 国民健康保険料(税)全額減免または徴収猶予 - 児童扶養手当の全額受給 - 世帯の経済状態が悪く、学校納付金の支払いが困難(収入指数1.1倍以下)													
実績	○ 要保護児童生徒 <table border="1"> <tr> <td>認定者数</td><td>小学生 4名</td><td>中学生 3名</td></tr> <tr> <td>事業費</td><td>0千円</td><td>95千円</td></tr> </table> ※要保護児童生徒の、援助対象は修学旅行費のみである。 ※要保護児童生徒に係る事業費の1/2以内で国庫補助金あり。 ○ 準要保護児童生徒 <table border="1"> <tr> <td>認定者数</td><td>小学生 93名</td><td>中学生 62名</td></tr> <tr> <td>事業費</td><td>2,714千円</td><td>4,487千円</td></tr> </table>		認定者数	小学生 4名	中学生 3名	事業費	0千円	95千円	認定者数	小学生 93名	中学生 62名	事業費	2,714千円	4,487千円
認定者数	小学生 4名	中学生 3名												
事業費	0千円	95千円												
認定者数	小学生 93名	中学生 62名												
事業費	2,714千円	4,487千円												
成果	経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して、必要な援助を適切に行うことができた。 また、前年度より準要保護児童生徒が増加しており、各世帯に事業内容が浸透しているものとする。													
評価と方向性	義務教育の円滑な実施を図るために、学校及び関係課と連携し今後も継続して実施していく。 また、国の要綱改正に伴い、就学予定者に「新入学児童生徒学用品費等」を入学する年度前に支給できるようになったことに合わせ、次年度町の要綱改正等を行い、対応できるよう事務を進める。													

学校の芸術文化活動事業		事業の評価	△
(3) 特別活動の充実		総合評価	B
概要	文化庁の事業として実施されている「文化芸術による子供の育成事業(巡回公演事業・派遣事業)」を活用し、小・中学校から希望を募り実施する。 本事業のうち派遣事業は、文化庁からの照会に対して、学校が事業内容を企画・応募し、審査の結果により実施されるものである。		
実績	○ 平成30年度 芸術家の派遣事業・・・実施なし 巡回公演事業・・・実施なし		
成果	芸術家の派遣事業では、伝統芸能等の体験することで、児童ひとりひとりの感性を磨き、郷土愛を深めることができる事業である。また、巡回公演事業では、普段目にすることができない歌舞伎・能楽等を生で見ることにより、生徒たちが広い視野を身につける貴重な体験となるが、今年度は開催できなかった。		
評価と方向性	文化庁の事業であるが、児童生徒が文化芸術と接する貴重な機会を得ることができるため、次年度は各学校に体験する機会を作ることを進める。		

学務課関係 No.7

学校施設管理事業		事業の評価	◎
(14) 教育環境の充実		総合評価	B
概要	小中学校の学校施設を良好に維持していくために、施設管理業務、維持補修及び改修工事を実施し、健全な学校生活環境の整備を行う。		
実績	小中学校の修繕及び施設整備工事の施工を実施した。 ・施設修繕 5,877千円(小中学校12校の施設修繕) ・施設整備 13,519千円(小中学校の施設整備・改修工事)		
成果	計画した小中学校の修繕及び施設整備工事を施工し、学校の環境整備が図られた。		
評価と方向性	施設の老朽化により必要な修繕・維持工事は実施している。 今後も、利便性向上のため修繕・維持工事を行っていく必要があるが、築25年以上経過した学校施設については、部分的補修ではなく、施設の全面改修工事の実施を検討する必要がある。		

奨学金貸付事業		事業の評価 ◎
(6)キャリア教育の推進		総合評価 B
概要	町内に住所を有する者の子で、高等学校以上の学校に在学し、勉学の意欲を有し、心身共に健康で、かつ経済上の理由で就学が困難と認められる者に対し、就学に必要な資金を貸し付けることにより有能な人材の育成に努める。	
実績	貸付の状況 ○平成30年度実績 - 貸付人数35名(新規採用者10名) - 高等学校 5名 ・ 専門学校 7名 ・ 短期大学 1名 ・ 大学 22名 - 貸付総額 15,770,000円 - 滞納状況 - 一般会計:16名 5,280,400円 - 奨学基金:22名 7,089,800円	
成果	将来を担う学生が就学するための手助けとなった。 なお、新規貸付者及び全体の貸付額は昨年度より減少している。しかし、滞納状況は一般会計は減少しているものの、基金会計は増加している。新しい滞納者が増えてきている状況である。	
評価と方向性	経済上の理由から就学のための資金を必要としている者への貸付として、事業の継続が必要である。 現在、貸付の決定は内規で定める採用基準により実施している。 今後も貸付事業を継続して実施していくために、返還金の滞納者への働きかけを継続して実施し、返還方法の見直し等を検討しながら、滞納額が減少するよう努力していく。	

学務課関係 No.9

特別支援教育就学奨励費補助事業		事業の評価 ◎						
(7)特別支援教育の充実		総合評価 B						
概要	学校教育法施行令第22条の3に規定する障害の程度に該当する児童生徒、特別支援学級等へ就学する児童生徒の世帯の所得に応じて、学用品費等の補助を行う。 なお、給食費については、平成27年度から実施の給食費無料化に伴い、補助の対象から除いた。							
実績	○ 特別支援学級 <table border="1"> <tr> <td>認定者数</td><td>小学生 5名</td><td>中学生 2名</td></tr> <tr> <td>事業費</td><td>31千円</td><td>79千円</td></tr> </table> ※事業費の1/2以内で国庫補助金あり。 ※30年度より、新入学児童生徒学用品・通学用品購入費が増額となった。		認定者数	小学生 5名	中学生 2名	事業費	31千円	79千円
認定者数	小学生 5名	中学生 2名						
事業費	31千円	79千円						
成果	認定された児童生徒及び特別支援学級等へ就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減できた。 将来を担う児童生徒が就学するための手助けとなった。							
評価と方向性	認定された児童生徒及び特別支援学級等へ就学する児童生徒の保護者の経済的負担や心の負担の軽減できる事業であるため、学校との連携をしながら今後も継続していく。							

中学生海外派遣事業		事業の評価◎
(9)国際化に対応する教育の推進		総合評価B
概要	海外の歴史や文化・産業等の視察や現地の学生と交流を図り、国際感覚を養う。 また、ホームステイの体験を通してコミュニケーション能力を養う。	
実績	町内4中学校の2学年から参加生徒を選抜し、6泊8日の日程でカナダのブリティッシュコロンビア州(バンクーバー)に派遣した。 現地では、ホームステイや体験型語学研修として学生と交流を図った。	
	派遣期間	10/19(金)～10/26(金)
	募集人員	30名
	参加生徒数	23名
	事業費	8,884千円
	参加者負担金	90千円/名(一般会計の雑入2,070千円)
成果	海外を訪問し、国際感覚やコミュニケーション能力を身につけたことにより、積極性やリーダーシップに目覚め、学校内外の活動に取り組む姿勢等に変化が現れた。また、訪問学校で「三つの花」を合唱したり、一部生徒による南部手踊りを披露したりするなど、積極的に日本・南部町をアピールしていたことは、素晴らしいことであった。	
評価と方向性	訪問学校やホームステイ先などで、生の英語に触れる機会に恵まれるとともに、様々な施設の見学や体験活動をとおして広い視野を身につけた。 前年度より募集人員を5名減らしたが、参加数が少なかった。生徒数の減少にともない、今後も募集人員の見直しや研修先の検討などを行う必要がある。	

学務課関係 No.11

外国語指導助手派遣事業		事業の評価 ◎
(9)国際化に対応する教育の推進		総合評価 B
概要	英語を母国語とする外国語指導助手(以下、ALT)が児童生徒の身近にいることにより、英語能力の向上及び興味・関心を持つことを図る。	
実績	民間業者への委託 ALT 3名 ※委託料:1か月1,150,200円 3名を小・中学校の英語指導の助手として配置した。 ◎小・中学校へは毎週訪問し、授業のほか、英会話スピーチコンテスト、中学生海外派遣事業の英語面接や英会話指導を行った。 ◎ALT活用研修 年2回開催 (1回目:7/23 講義、2回目:12/13 授業見学・講義)	
成果	ALTの活用により、授業の質の向上や児童生徒の学力向上、英語教育の指導体制の充実が図られた。 また、中学生のスピーチコンテストでは県大会へ出場し優秀な成績を収めている。 2020年度からの小学校外国語教育の全面実施に向け、教員の指導力向上のため、町独自のALT活用研修を開催することができ、教員の授業の仕方等の参考になったので、今後も続けていきたいと考えている。	
評価と方向性	前年度より1名増員し、3名のALTの活用により、外国語活動や英語の授業において、単語の正しい発音やコミュニケーション能力の向上を図ることができた。 2020年度より小学校外国語教育が全面実施となるため、今まで以上に各学校における外国語活動・授業の充実に図るため、予算措置を行う方向で検討している。 また、次年度も引き続き、ALTの活用に係る教員向け(主に小学校教員)の研修を年2回程度実施し、教員の指導力向上に向けた取り組みも継続していく。	

教職員研修事業		事業の評価 ◎
(11)研修の充実		総合評価 B
概要	教職員の新採用者に対して、南部町の教育課題・文化歴史等について理解を深めてもらうことを目的に実施する。 南部町の歴史、文化、各種事業の内容を理解し、教職員の認識向上を図り学習指導に取り入れている。	
実績	○南部町ふるさと研修(4/27) 対象者:3名 【町の教育課題について】 学務課長 【町の文化、歴史等について】 講師: 社会教育課 史跡対策室 布施総括主査 【町内文化財巡り】 1. 史跡「聖寿寺館跡」及び南部利康霊屋 2. 腰掛石 3. 名川地区各館跡 4. 法光寺及び周辺文化財 5. 剣吉城跡 6. 福地地区館跡 7. 相内観音堂及び相内館跡	
成果	学務課長(教育長代理)による教育課題等の説明後、合併10周年記念DVDを活用して町の概要を紹介。 歴史的文化遺産の保護や次世代へ引き継ぐための重要性の他、実際に現地を訪れて南部氏に関連する文化財や町の歴史・文化への理解を深めることができた。	
評価と方向性	研修を通じて町の教育課題や歴史・文化の重要性を広く深く理解し、児童生徒の指導に役立つよう研修内容を検討し、ステップアップを図る。	

幼稚園就園奨励費補助事業		事業の評価 —
(13)幼児教育の推進		総合評価 —
概要	私立幼稚園に就園する園児の保護者の経済的負担の軽減を図るため、世帯の所得状況に応じて保育料の一部を減免(補助)し、幼稚園教育の振興に資する。	
実績	対象者なし	
成果	実績なし	
評価と方向性	認定された園児及び保護者の経済的負担や心の負担の軽減できる事業であるため、私立幼稚園と連携をとりながら今後も継続していく。	

家庭教育講座（おもしろ体験教室）		事業の評価	○
(2)学校・家庭・地域との連携及び協働による推進		総合評価	B
概要	親子でのいろいろな体験活動によるコミュニケーションやふれあいの時間を作るための講座を開催する。		
実績	○ 親子での参加による体験活動型の講座を開催した。		
	参加者数	22名（小学生、保護者）	
	開催回数	2回	
	開催場所	名川ドライフラワーセンター	
	講座内容	12月：雪だるまポット、お正月しめ飾り	
	事業費	31千円（講師謝礼）	
成果	親子で、共同して制作活動を行うことにより、各工程において、コツなどの会話がはずみコミュニケーションづくりの一助となった。		
評価と方向性	親子のコミュニケーションづくりが図られ、事業の目的は概ね達成できた。今後については、内容、回数、開催日、対象者を検討し継続したい。		

社会教育課関係 No.1 5

青年教室		事業の評価 ○													
(3) 多様な学習機会の拡充		総合評価 B													
概要	青年による自発的な学習・体験・交流活動を目的に、親睦を深め、同世代の「つながりの輪」を広げるとともに若者による町づくりを考える。														
実績	<table><tr><td>参加者数</td><td>延べ48名</td></tr><tr><td>開催回数</td><td>2回</td></tr><tr><td>講座内容</td><td>第1回 2／3（日）スキー教室①</td></tr><tr><td>開催日</td><td>第2回 2／17（日）スキー教室②</td></tr><tr><td>開催場所</td><td>奥中山高原スキー場、安比高原スキー場</td></tr><tr><td>事業費</td><td>20千円(講師謝金)</td></tr></table>			参加者数	延べ48名	開催回数	2回	講座内容	第1回 2／3（日）スキー教室①	開催日	第2回 2／17（日）スキー教室②	開催場所	奥中山高原スキー場、安比高原スキー場	事業費	20千円(講師謝金)
参加者数	延べ48名														
開催回数	2回														
講座内容	第1回 2／3（日）スキー教室①														
開催日	第2回 2／17（日）スキー教室②														
開催場所	奥中山高原スキー場、安比高原スキー場														
事業費	20千円(講師謝金)														
成果	近年の社会状況や就業形態の多様化により、青年の集まれる機会が少ないため、成人式実行委員に参加いただき行った。														
評価と方向性	本事業は、合併以来行ってきた事業ではあるが、若者を取り巻く社会状況や就業形態の多様化により参加者の獲得は非常に厳しい。参加者が少ないので、内容を考慮し、自発的に活動、継続をすることが望ましい。														

まべち笑楽校		事業の評価◎										
(3) 多様な学習機会の拡充		総合評価B										
概要	月2回（第1・第3火曜）、高齢者（60歳以上）の生きがいづくりをねらいとして、学校方式を模して学習活動を行う。 地域の各種愛好者を指導者に迎え、学習内容を国語、算数、理科、社会、体育、音楽、図画工作、外国語、総合の教科に置き換える。											
実績	<table><tr><td>参加者数</td><td>14名 男性4名 女性10名</td></tr><tr><td>開催回数</td><td>16回</td></tr><tr><td>講座内容 開催日</td><td>入学式 5/29 授業日 6/19、7/17、7/24、9/18 10/2、10/16、11/6、11/20、12/4 12/18、2/5、2/19、3/7、3/12 卒業式 3/19 ※修学旅行は、10/16に行い、岩手県平泉町 中尊寺周辺を巡った。</td></tr><tr><td>開催場所</td><td>中央公民館、剣吉公民館 ほか</td></tr><tr><td>事業費</td><td>125千円(講師謝金、消耗品等)</td></tr></table>		参加者数	14名 男性4名 女性10名	開催回数	16回	講座内容 開催日	入学式 5/29 授業日 6/19、7/17、7/24、9/18 10/2、10/16、11/6、11/20、12/4 12/18、2/5、2/19、3/7、3/12 卒業式 3/19 ※修学旅行は、10/16に行い、岩手県平泉町 中尊寺周辺を巡った。	開催場所	中央公民館、剣吉公民館 ほか	事業費	125千円(講師謝金、消耗品等)
参加者数	14名 男性4名 女性10名											
開催回数	16回											
講座内容 開催日	入学式 5/29 授業日 6/19、7/17、7/24、9/18 10/2、10/16、11/6、11/20、12/4 12/18、2/5、2/19、3/7、3/12 卒業式 3/19 ※修学旅行は、10/16に行い、岩手県平泉町 中尊寺周辺を巡った。											
開催場所	中央公民館、剣吉公民館 ほか											
事業費	125千円(講師謝金、消耗品等)											
成果	高齢者の自発的な活動をねらい、学習内容は話し合いで決めている。学習活動では、参加者の積極性が伺われ、常に笑いがあり明るい雰囲気の中での学習が出来た。教科内容については南部町に関わるものとするに努め、講師は主に町内在住者に依頼した。 参加者からは、「他地区の人と知り合えた」、「色々な事が勉強できた」、「1年間楽しかった」などの感想が寄せられるなど、高齢者の学習意欲の向上が図られ、生きがいづくりの一助となった。											
評価と方向性	平成30年度において6期目の開催となった。同窓会も組織され、学校の活動とは別に食事会などを独自に行っています。今後、社会活動への参加も期待できる。 まべち笑楽校の学習活動は参加者に好評であり、高齢者の生きがいづくりとなるため、今後も継続が望ましい。											

南部ふるさと塾		事業の評価 ◎
(3) 多様な学習機会の拡充		総合評価 A
概要	南部藩発祥の地と云われる南部町は奥州南部氏の入部にはじまり、南北朝時代・室町時代を経て戦国時代に至るまで南部地方の政治・経済・文化の中心地であった。町内には南部氏に関わる城館跡や文化財・伝承が数多く残っている。南部ふるさと塾では、この歴史的な魅力あふれる地域性を活かし、南部地方の歴史に関連する各分野の研究者を講師として招き、町内外を問わず広く、郷土の歴史・伝統・文化を学習する場を提供することを目的としている。 30年度のテーマは『南部前史と奥州南部氏の登場』と題し、平安時代から鎌倉時代にかけての北奥世界の実像と、鎌倉時代の南部氏の動向、さらには南部氏が奥州に入部した経緯について、全6回のシリーズで文献史学や考古学など様々な角度から検証する。	
実績	全体テーマ『南部前史と奥州南部氏の登場』 来場者合計 1,342名 第1回 史跡聖寿寺館跡調査整備委員会委員長 三浦圭介氏 『古代後期の防禦性集落と南部の馬産集団』 9/1 参加者：191名 会場：町民ホール 第2回 東北大学教授 柳原敏昭氏 『糠部の成立と戸立の馬』 10/27 参加者：205名 会場：町民ホール 第3回 岩手歴史考古学会 羽柴直人氏 『平泉時代の糠部と北奥の交通・流通』 11/17 参加者：219名 会場：町民ホール 第4回 青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ 若松啓文氏 『甲斐南部氏から奥州南部氏へ』 1/26 参加者：235名 会場：町民ホール 第5回 八戸市博物館主事兼学芸員 滝尻侑貴氏 『南部師行と奥州入部』 2/23 参加者：262名 会場：町民ホール 第6回 弘前大学名誉教授・弘前学院大学特任教授 齊藤利男氏 『南部政長から南部信濃守信行へー南北朝内乱と三戸南部氏の登場ー』 3/16 参加者：230名 会場：町民ホール ○ 事業費 230千円（講師謝金）	
成果	次年度のテーマや講師は講座毎に毎回実施しているアンケートを参考に、弘前大学名誉教授の齊藤利男氏（史跡聖寿寺館跡調査整備委員）や共催団体の町歴史研究会と協議の上決定した。また、当日の受付等の会場運営を歴史研究会と共同で行った。平均して1回あたり223の参加者があり、1回の平均参加者数としては過去最高。八戸市や二戸市等近隣市町村はもとより青森市、弘前市、盛岡市、秋田市、宮城県、千葉県、神奈川県など遠方からの参加もあった。シリーズものの歴史講座としては全国的に有数の規模となっている。参加者は平成20年度の134名から約10倍増加した。 はじめての参加者が1割を占め、新規参加者の開拓に成果があった。	
評価と方向性	町外の参加者に対し、歴史をとおして町をPRすることができた。歴史講座の参加者数としては全国的にも有数の規模であり、南部町の歴史や文化財を地域資源として掘り起し、今後も講座をとおして町内外にPRするため継続が望まれる。南部ふるさと塾の取り組みは平成30年9月5日に実施された知事とのまるごとトーク（県主催事業）に取上げられた。次年度は『南部氏城館の系譜』と題し、全国的に著名な城郭考古学者千田嘉博氏等を講師として迎え、さらに内容の拡充を図る予定である。	

学校と地域ネット推進事業		事業の評価	◎
(2) 学校・家庭・地域との連携及び協働による推進		総合評価	A
概要	小・中学校の要望に応じて、各分野の専門家、愛好家に学校教育活動に講師として参加してもらい、児童・生徒の基礎的事項の定着を図り、地域に対する愛着の心を育むことを目的にした事業を行う。		
実績	○ 学校の要望に応じた講師（ゲストティーチャー）を派遣する。 学校が社会教育課へ計画書を提出する。講師との連絡調整は社会教育課が行う。		
	対 象 者	児童、生徒、一般	
	講 師	24名 10団体	
	開催回数	210回	
	開催場所	小・中学校	
	学習項目	踊り・郷土芸能 — 名川音頭・福地音頭・南部手踊り・えんぶり・ダンス・ナニャドヤラ 学術・歴史 — 南部七踊り鑑賞会 生活・産業 — 郷土料理・豆腐づくり・米作り・コサージュ作成 趣味・娯楽 — 読み聞かせ・将棋・囲碁・詩吟 音楽・楽器 — 三味線 その他 — 陸上指導・自転車教室・カイコ学習	
	事業費	574千円(講師謝金)	
	成果	町の歴史や郷土芸能など、地域の専門家・愛好家の指導により本物を体感することができ、学校・地域の連携の一助となった。 講師は主に地域在住の方に依頼しているので、「地元へ貢献したい」との意識が感じられた。	
評価と方向性	文化・歴史・芸能等に精通している方や、地域在住の方に講師を依頼することにより、学校と地域の連携が多く見られた。 今後の課題として、講師の高齢化に対応するため、様々な分野の新規講師の発掘・確認とともに、関係各課との連携など臨機応変に対応する必要があると考える。 学校教育・社会教育ともに学習効果が大きいため、今後も事業の継続が望まれる。		

平成31年南部町成人式		事業の評価	◎						
(1) 社会教育推進体制の充実		総合評価	B						
概要	成人式実行委員会 新成人自らの手で、大人への節目である成人式を作り上げることを目的として組織し、式典内の各代表や係分担、アトラクション他、企画・運営にかかわる様々な事項を協議する。 成人式の開催 町連合青年団の協力により、式典・アトラクション（実行委員会作成によるスライド上映）・記念写真撮影を行う。								
実績	○ 開催日時 平成31年1月13日（日）13時00分～ ○ 開催場所 町民ホール（楽楽ホール） ○ 事業費 500千円 ○ 事業内容 式典、アトラクション（実行委員会作成によるスライド上映）、記念写真撮影（記念品） <table><tr><td>対象者</td><td>200名</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>168名（出席率84.0%）</td></tr><tr><td>実行委員会</td><td>3回</td></tr></table>			対象者	200名	参加者数	168名（出席率84.0%）	実行委員会	3回
対象者	200名								
参加者数	168名（出席率84.0%）								
実行委員会	3回								
成果	町連合青年団及び成人式実行委員会の協力・連携により、円滑に式典を進行できた。 また、青年団については前回と同様に多くの人数から協力が得られた。 なお、冬場の寒い時期の開催ではあるが、受付時間においては混雑など支障を来すことがなく運営ができた。								
評価と方向性	成人式を青年教育の一つとし、成人としての自覚と自己の責任を持つ決意を促すことができるよう、実行委員会の役割や町連合青年団との関わりを多く持たせ、将来の町の担い手となる新成人に「地域づくり」へ参加する機会となるよう、町連合青年団と連携していく。								

南部町文化賞・スポーツ賞表彰式		事業の評価	◎
(1) 社会教育推進体制の充実		総合評価	B
概要	町の文化向上に貢献した者、町の体育・スポーツに振興発展に功績があった者を表彰する。		
実績	○ 開催日 平成31年2月2日(土)		
	○ 開催場所 町民ホール(楽楽ホール)		
	○ 事業費 210千円		
	文化功労賞	該当者なし	
	文化賞	16名	
	文化奨励賞	73名(うち団体1、個人41人)	
	スポーツ功労賞	該当者なし	
	スポーツ賞	22名(うち団体1、個人4人)	
成果	スポーツ奨励賞 46名(うち団体2、個人9人)		
	文化の向上、体育・スポーツ振興に功績のあった方々を表彰した。		
評価と方向性	町民の模範とみられる功労のあった方々及びそれぞれの分野で功績があった方々への賞であることと、受賞者には今後の励みとなることから継続が望まれる。		

社会教育課関係 No.21

南部七唄七踊り実行委員会補助金事業		事業の評価	◎
(3) 多様な学習機会の拡充		総合評価	B
概要	南部七唄七踊りの啓発、普及、後継者育成を目的に大会を行う。		
実績	○開催日 平成30年9月23日(日)		
	○開催場所 町民ホール(楽楽ホール)		
	○実行委員会 年5回 大会の内容を協議		
	出場者数	七唄小学生の部	5名
		七唄中・高生の部	0名(1名出場辞退)
		七踊り子どもの部	28名
七踊り大人の部		24名	
事業費	2,900千円(町補助金)		
成果	南部七踊りの大会が24回、南部七唄の大会が19回開催され、会場に入りきらないほどの盛況で、テレビ放映もあり関心の高さがうかがえる。 大会出場者の大人の部の年齢層が若い世代に移行しているので後継者育成が進行していると思われる。		
評価と方向性	南部七唄七踊りは町の文化財にも指定され、多くの方々に支持されているため継続が望まれる。 また、DVDの販売が後継者育成の一助となることが望まれる。 七踊りは、若い後継者が育っていると感じられるものの、七唄については、出場者の減少が続いており、今後の後継者育成が課題である。		

文化財審議委員会議・文化財保存事業		事業の評価◎																
(1) 文化財の保護及び保存		総合評価B																
概要	文化財審議委員会議の開催 文化財審議委員による町指定文化財候補物件の調査、文化財の指定 町文化財保存事業補助金の交付																	
実績	<table><tr><td>会議の開催日</td><td>8／10</td><td>3／11</td></tr><tr><td>町指定候補物件 (相内熊野神社祭礼行事) 調査</td><td>9／9</td><td></td></tr><tr><td>三八地区文化財保護研究集会</td><td>10／11</td><td>会場：五戸町 ごのへ郷土館</td></tr><tr><td>町文化財保存事業補助金</td><td colspan="2">159千円 (国登録有形文化財法光寺承陽塔避難用設備整備事業 階段手すり設置)</td></tr><tr><td>事業費</td><td colspan="2">282千円(謝礼123千円・補助金159千円)</td></tr></table>			会議の開催日	8／10	3／11	町指定候補物件 (相内熊野神社祭礼行事) 調査	9／9		三八地区文化財保護研究集会	10／11	会場：五戸町 ごのへ郷土館	町文化財保存事業補助金	159千円 (国登録有形文化財法光寺承陽塔避難用設備整備事業 階段手すり設置)		事業費	282千円(謝礼123千円・補助金159千円)	
会議の開催日	8／10	3／11																
町指定候補物件 (相内熊野神社祭礼行事) 調査	9／9																	
三八地区文化財保護研究集会	10／11	会場：五戸町 ごのへ郷土館																
町文化財保存事業補助金	159千円 (国登録有形文化財法光寺承陽塔避難用設備整備事業 階段手すり設置)																	
事業費	282千円(謝礼123千円・補助金159千円)																	
成果	平成29年度から2カ年にわたり調査を継続してきた「西有穆山関係資料」9点を平成31年3月20日に町文化財に指定した(町文化財として57件目の指定)。自治体による西有穆山に関する文化財指定は全国的に今回が初。恵光院女神像は県指定となったため、町指定解除となった。町指定候補物件としては「相内熊野神社祭礼行事」の調査を実施した。 また、町文化財保存事業として申請のあった国登録有形文化財法光寺承陽塔避難用設備整備事業(階段手すり設置)に補助金を交付した。																	
評価と方向性	町指定文化財の候補物件は26件あり、優先順位をつけて毎年地道に調査し、所有者の了承を得た上で指定していく必要がある。																	

史跡対策室関係 No.23

町内文化財パトロール事業		事業の評価	○
(1) 文化財の保護及び保存		総合評価	B
概要	町内に所在する文化財について、パトロールを通して現状を把握し保護活動に努める。		
実績	主 な 業 務	遺跡の範囲変更及び新規遺跡の登録 土地開発等による埋蔵文化財の破壊や盗掘の有無の確認 文化財・埋蔵文化財の現状を、踏査・情報収集により把握	
	パトロール件数	60件	
	新規遺跡登録	なし	
	実 施 日	通年	
	事 業 費	— 円 県費負担	
成果	文化財・埋蔵文化財の現状を、踏査・情報収集により把握することができた。 今回のパトロールでは文化財に異常は確認されなかった。		
評価と方向性	文化財・埋蔵文化財の保護には必要不可欠な事業であり、今後も継続してパトロールを実施する必要がある。		

南部学研究会		事業の評価	◎																								
(2) 文化財の整備及び活用		総合評価	A																								
概要	「南部学」とは、南部氏と南部地方に関わる歴史や文化、伝統を研究する学問である。 南部町は南部藩発祥の地であり、南部氏は室町時代から戦国時代にかけて南部町とその周辺を拠点に活躍し、数多くの痕跡を残している。近年、聖寿寺館跡をはじめとして中世南部氏全般について、文献史学や考古学の調査研究が進み、これまで謎に包まれていた中世南部氏の興亡が着実に解明されつつある。 第5回南部学研究会では町民及び県内外の研究者等を対象とし、最新の研究成果を基に、講演会やシンポジウム等を開催し、南部氏研究の深化を図るとともに、歴史的重要性を全国に発信するものである。																										
実績	○ 第5回南部学研究会『「三戸御館」 聖寿寺館とその空間構成』 <table><tr><td>開催日</td><td>平成30年12月16日</td><td>13:10～16:45</td></tr><tr><td>開催場所</td><td colspan="2">町立町民ホール「楽楽ホール」</td></tr><tr><td>開催内容</td><td colspan="2"> 基調講演1 小野正敏氏（国立歴史民俗博物館名誉教授） 「南部氏聖寿寺館と根城の権威空間、その特徴と意義」 基調講演2 齊藤利男氏（弘前大学名誉教授・弘前学院大学特任教授） 「南部屋形の宗教空間 —三戸御館と聖寿寺・教浄寺・永福寺—」 研究報告1 永井康雄氏（山形大学教授） 「聖寿寺館中心区画跡から発掘された建物跡の性格について」 研究報告2 布施和洋（南部町教育委員会） 「聖寿寺館中心区画の発掘調査から見える三戸南部氏」 【シンポジウム】 『「三戸御館」 聖寿寺館とその空間構成』 コーディネーター 齊藤利男氏 パネリスト 小野正敏氏 永井康雄氏 布施和洋 </td></tr><tr><td>対象者</td><td colspan="2">町民及び周辺市町村民（年齢問わず）</td></tr><tr><td>入場料</td><td colspan="2">無料</td></tr><tr><td>参加者</td><td colspan="2">234名</td></tr><tr><td>周知方法</td><td colspan="2">町広報、ポスター掲示、新聞記事掲載</td></tr><tr><td>事業費</td><td colspan="2">1,296千円（内 1,100千円が町村会より助成）</td></tr></table>			開催日	平成30年12月16日	13:10～16:45	開催場所	町立町民ホール「楽楽ホール」		開催内容	基調講演1 小野正敏氏（国立歴史民俗博物館名誉教授） 「南部氏聖寿寺館と根城の権威空間、その特徴と意義」 基調講演2 齊藤利男氏（弘前大学名誉教授・弘前学院大学特任教授） 「南部屋形の宗教空間 —三戸御館と聖寿寺・教浄寺・永福寺—」 研究報告1 永井康雄氏（山形大学教授） 「聖寿寺館中心区画跡から発掘された建物跡の性格について」 研究報告2 布施和洋（南部町教育委員会） 「聖寿寺館中心区画の発掘調査から見える三戸南部氏」 【シンポジウム】 『「三戸御館」 聖寿寺館とその空間構成』 コーディネーター 齊藤利男氏 パネリスト 小野正敏氏 永井康雄氏 布施和洋		対象者	町民及び周辺市町村民（年齢問わず）		入場料	無料		参加者	234名		周知方法	町広報、ポスター掲示、新聞記事掲載		事業費	1,296千円（内 1,100千円が町村会より助成）	
開催日	平成30年12月16日	13:10～16:45																									
開催場所	町立町民ホール「楽楽ホール」																										
開催内容	基調講演1 小野正敏氏（国立歴史民俗博物館名誉教授） 「南部氏聖寿寺館と根城の権威空間、その特徴と意義」 基調講演2 齊藤利男氏（弘前大学名誉教授・弘前学院大学特任教授） 「南部屋形の宗教空間 —三戸御館と聖寿寺・教浄寺・永福寺—」 研究報告1 永井康雄氏（山形大学教授） 「聖寿寺館中心区画跡から発掘された建物跡の性格について」 研究報告2 布施和洋（南部町教育委員会） 「聖寿寺館中心区画の発掘調査から見える三戸南部氏」 【シンポジウム】 『「三戸御館」 聖寿寺館とその空間構成』 コーディネーター 齊藤利男氏 パネリスト 小野正敏氏 永井康雄氏 布施和洋																										
対象者	町民及び周辺市町村民（年齢問わず）																										
入場料	無料																										
参加者	234名																										
周知方法	町広報、ポスター掲示、新聞記事掲載																										
事業費	1,296千円（内 1,100千円が町村会より助成）																										
成果	聖寿寺館跡を国内の第1線で活躍する研究者による新たな視点で評価してもらい、他地域の様相と比較することにより、南部氏と聖寿寺館跡に関する研究に進展があった。県内はもとより岩手県・秋田県・千葉県・東京都・埼玉県など全国各地から234名の参加者があり、南部藩発祥の地「南部町」のPRに一定の効果があった。初参加者が26%を占め、新規参加者の開拓に一定の成果があった。																										
評価と方向性	南部町や南部藩発祥の地としての歴史、史跡聖寿寺館跡や周辺の文化財、これらに関連する歴史企画への需要は高いものと考えられ、企画の仕方では十分に集客力が期待できる分野であることがわかった。アンケート集計の結果ほとんどの参加者が次回開催を希望している。南部学研究会の取り組みは平成30年9月5日実施の知事とのまるごとトーク（県主催事業）に取上げられた。 当日配布資料集（A4版50ページ）は南部町のPRと保存を兼ねて、県内外の図書館等約60施設に送付した。																										

奥州街道の整備・活用・普及事業		事業の評価	○						
(2) 文化財の整備及び活用		総合評価	B						
概要	南部町には、江戸時代に定められた五街道のひとつである「奥州街道」が南北に縦断している。年2回程度、奥州街道の刈り払いを行い、管理・整備している。また、町の歴史を楽しく学ぶ奥州街道ウォークも実施し、活用・普及している。								
実績	<table><tr><td>奥州街道ウォーク</td><td>町内小学校4校 102名 (5/28 福田小学校、6/18 名久井小学校 10/30 南部小学校・向小学校)</td></tr><tr><td>街道誘導標の設置</td><td>5箇所(街道の主要な分岐点等に設置)</td></tr><tr><td>事業費</td><td>98千円</td></tr></table> ※奥州街道手作りパンフレットを史跡聖寿寺館跡案内所・役場等に設置している。			奥州街道ウォーク	町内小学校4校 102名 (5/28 福田小学校、6/18 名久井小学校 10/30 南部小学校・向小学校)	街道誘導標の設置	5箇所(街道の主要な分岐点等に設置)	事業費	98千円
奥州街道ウォーク	町内小学校4校 102名 (5/28 福田小学校、6/18 名久井小学校 10/30 南部小学校・向小学校)								
街道誘導標の設置	5箇所(街道の主要な分岐点等に設置)								
事業費	98千円								
成果	奥州街道沿いには数多くの文化財があり、街道を歩いて町の歴史を楽しく学ぶことは、一般の方はもとより児童にとっても新鮮に映ったようである。奥州街道の通行者や問い合わせは年間を通して一定量あり、今年度も手作りパンフレットを社会教育課、史跡聖寿寺館跡案内所に設置している。また、老朽化していた誘導標を4箇所交換し、1カ所新設した。								
評価と方向性	奥州街道や奥州街道ウォークに対して一定のニーズがあり、今後も事業を継続していく。								

史跡対策室関係 No.26

国指定重要文化財『南部利康霊屋』の保存管理・公開活用			事業の評価	◎
(1) 文化財の保護及び保存			総合評価	B
概要	国指定重要文化財『南部利康霊屋』の敷地除草・植木の手入れ・霊屋トイレの管理・修繕等の保存管理及び公開・活用を目的とした南部利康霊屋保存管理委員会への助成（町から535千円） 霊屋覆屋照明器具交換・修繕工事 霊屋カビ繁殖状況調査			
実績	事業内容	通年	拝観業務	
		4月～11月	霊屋公園環境整備	
		4/10	南部利康霊屋保存管理委員会会議	
		5月	霊屋覆屋照明器具交換・修繕工事	
		8/18	南部利直命日法要	
		10/20	霊屋カビ繁殖状況調査	
		11/21	南部利康命日法要	
	見学者	1,277名（3月14日時点）		
	事業費	981千円（うち、535千円は保存管理委員会へ助成）		
成果	史跡聖寿寺館跡案内所のオープン後は拝観者が大幅に増加した。29年度から保存管理委員会規約を改正し、聖寿寺地区の地元関係者を中心とした委員構成で運営している。30年度は壁画や漆の保護のため、霊屋覆屋照明を紫外線を出さないLEDランプに交換した。ライティングを工夫し、内部にも光を充てるように設定した。また、霊屋壁面・柱等にみられたカビの繁殖状況の調査を専門家に依頼した。			
評価と方向性	南部利康霊屋は貴重な国指定重要文化財であり、周辺環境も含めて保存管理・整備を継続していく必要がある。平成29年4月からは史跡聖寿寺館跡案内所の臨時職員が拝観業務を担当することとなったことから、年末年始を除いて拝観対応できるようになり、公開期間が拡充された。霊屋覆屋は築50年を経過し、老朽化していることから、少しずつ設備を交換・修復していく必要がある。			

史跡聖寿寺館跡調査整備委員会		事業の評価◎
(2) 文化財の整備及び活用		総合評価B
概要	『史跡聖寿寺館跡』を史跡公園化として整備するため、平成26年3月に策定した『史跡聖寿寺館跡整備基本計画書』に基づき、史跡聖寿寺館跡調査整備委員会を開催し、発掘調査の進め方や史跡公園化に向けた整備内容について検討を進める。	
実績	○ 史跡聖寿寺館跡調査整備委員会（委員 14名）	
	第11回会議 6／19（火）	平成30年度発掘調査計画について 平成31年度整備事業について 史跡ガイド養成講座について
	視察研修 6／19（火）	八戸市是川縄文館視察研修 担当者より施設の整備、ボランティアガイドの運営について説明を受け、情報を収集した。
	第12回 会議 1／29（火）	平成30年度発掘調査成果と平成31年度発掘調査計画について 平成31年度整備事業計画について 平成30年度公有化事業と平成31年度公有化事業計画について 史跡ガイドの発足について
	事業費	437千円（町単費）
成果	平成31年4月発足予定の史跡ガイドについて情報を収集するため、先進地視察（八戸市是川縄文館）を実施した。また平成30年度の発掘調査、整備内容について検討を進め、平成31年度の発掘調査予定区域を決定した。	
評価と方向性	平成29年11月の文化庁からの指導に基づき、これまでの発掘調査成果を踏まえて整備計画を見直すこととし、平成30・31年度は発掘調査に専念することとなった。令和2年度に整備基本設計を策定し、令和3年度より整備を再開する予定。	

史跡対策室関係 No.28

史跡聖寿寺館跡土地公有化事業		事業の評価 ◎
(2) 文化財の整備及び活用		総合評価 B
概要	北東北最大の中世武士団であった南部氏の中心的城館である史跡聖寿寺館跡を保護保存し、史跡公園として整備するため、地権者の同意を得て聖寿寺館跡本体部分の土地を計画的に公有化する。	
実績	○ 公有化対象地住所 南部町大字小向字館3-1・4-1 ○ 面積 1,324.24 m²（2筆） ○ 事業費 92,377千円（国庫補助 73,896千円）	
成果	史跡聖寿寺館跡本体のうち、北側虎口に位置する宅地2件を公有化した。公有化した場所には北側虎口に伴う門跡や通路跡・土橋跡などが想定されることから、平成31年度に発掘調査を実施する。聖寿寺館跡土地公有化事業における家屋移転は初。	
評価と方向性	平成17年度に文化庁・青森県教育委員会・南部町教育委員会の連名で刊行した『史跡聖寿寺館跡保存管理計画』に基づき、文化庁から8割の補助金を受け、公有化を進めている。 史跡公園として必要な部分を優先し、公有化していく必要がある。次年度は聖寿寺館跡下段平場と大手口の可能性がある虎口3の場所を公有化する予定である。	

史跡聖寿寺館跡整備事業		事業の評価 ◎
(2) 文化財の整備及び活用		総合評価 B
概要	平成26年3月に策定した『史跡聖寿寺館跡整備基本計画』に基づき、令和2年度までに聖寿寺館跡を町民が親しみ、憩いの場となるような史跡公園として整備するものである。	
実績	○聖寿寺館跡法面復旧工事設計業務 1. 内 容 平成30年4月に聖寿寺館跡東側法面の一部が崩落したことに伴う見学者や近隣民家の安全を確保するための復旧工事設計業務・工事費の積算 2. 事業費 756千円(町単費) ※設計業務で積算された工事費に基づき、国庫補助金(文化庁)の申請を行った。 ○史跡ガイド養成講座の開催 1. 参加者 15名(南部町・八戸市・三戸町・五戸町・七戸町在住) 2. 養成講座 第4回講座 6月 9日 現地視察研修(八戸市根城の広場) 第5回講座 7月14日 発掘調査への参加 第6回講座 9月 1日 弘前大学名誉教授 齊藤利男氏による演習 第7回講座 11月10日 ガイド実践トレーニング 第8回講座 12月 8日 弘前大学名誉教授 齊藤利男氏による演習 3. 修了証書授与式 12月8日 修了者14名(ガイド登録申し込み) 4. ガイド組織立ち上げに係る打合せ(1月26日・3月16日) ○城御朱印のデザイン 平成31年度に八戸市や二戸市、三戸町、鯨ヶ沢町、久慈市と連携して実施する予定の城御朱印のデザイン業務。 ○事業費 917千円(町単費)	
成果	○聖寿寺館跡法面復旧工事設計業務 安全に配慮しつつ、城館期当時の景観に相応しい法面の傾斜となるように設計した。 ○史跡ガイド養成講座の開催 史跡聖寿寺館跡について分かりやすく案内・解説してもらう人材を育成するため、平成29年度に引き続き史跡ガイド養成講座を開催した。講座は5回開催し、平成29年度の3回と合わせて合計8回の講座を用意した。12月8日に修了式を開催し、応募者15名中14名が所定の課程を修了。内13名からガイド登録の申し込みがあった。 ○城御朱印のデザイン業務 弘前市在住のプロの書道家と八戸市のデザイナーが聖寿寺館跡城御朱印をデザインした。	
評価と方向性	○聖寿寺館跡法面復旧工事について 今年度の設計内容に基づき、平成31年度に工事を実施する予定である。(文化庁 5割補助) ○史跡ガイドの発足について 史跡ガイドは平成31年4月に発足予定であり、当面は事前にガイドのスケジュールを調整した上で、予約制で対応する。ガイドの勉強会は引き続き実施していき、新たな情報を更新していく。 ○城御朱印について 平成31年度に南部氏関連城館が所在する八戸市や二戸市、三戸町、鯨ヶ沢町、久慈市と連携し、一斉に城御朱印を発売する予定。当町は史跡聖寿寺館跡案内所において1枚300円で販売予定。	

史跡聖寿寺館跡等の発掘調査		事業の評価	◎
(2) 文化財の整備及び活用		総合評価	A
概要	○ 聖寿寺館跡発掘調査 ・発掘調査期間 5/7～11/30 遺物整理期間 12/1～3/20 調査面積 2,106㎡ ・調査地点 大型建物跡を確認した前年度調査区の東側隣接地。 平場南側の遺構確認。平成29年度に確認した溝跡延長部分。 ・調査原因 平成26年3月策定の史跡聖寿寺館跡整備基本計画書に基づき、史跡公園として整備するための情報収集を目的とする。 ○ 正寿寺遺跡発掘調査 ・発掘調査期間 4/16～5/16 遺物整理期間 12/1～3/20 調査面積 105.17㎡ ・調査地点 三光寺北側隣接地 調査原因 墓地移転計画に伴う試掘調査 ○ 西久根遺跡発掘調査 ・発掘調査期間 6/13～6/14 遺物整理期間 12/1～3/20 調査面積 12.3㎡ ・調査地点 南部町大字福田字西久根地内 調査原因 墓地移転計画に伴う試掘調査 ○ 佐野平遺跡発掘調査 ・発掘調査期間 4/18～4/19 遺物整理期間 12/1～3/20 調査面積 12㎡ ・調査地点 南部町大字大向字佐野平地内 調査原因 個人住宅建設に伴う試掘調査		
実績	○ 聖寿寺館跡の調査成果 ・中心区画北東部より東北最大級の門柱跡が確認された。1辺45cm程度の太さの角柱が深さ2m、対になる位置に地中に埋まっていた痕跡を確認した。専門家からは屋根のない扉重門である可能性が指摘された。 ・柱穴内礎石（根石）を伴う掘立柱建物跡（建物F）の全容が確認され、二階建ての可能性が高いことが山形大学永井教授から指摘された。他の中心建物群の柱の太さは15cmから18cm程度であるのに対し、建物Fの柱の太さは25cm程度で太く、さらに柱穴も直径1m程度と大型。二階建ての建物跡が発掘調査で確認されるのは全国的にも珍しい。 ・城館西側の中心区画と東側の倉庫工房空間を隔てるための溝跡が2条確認された。 ・遺物としては北東北初となる犬形土製品が出土した。犬形土製品は畿内で多く出土しており、関東では1点も出土していない。東北ではこれまで3カ所（山形県・福島県・宮城県）で1点ずつ出土しており、聖寿寺館跡の大型土製品は4例目。都周辺との直接的な交流が伺われ、三戸南部氏の格式の高さを示す証拠である。犬形土製品は安産祈願のお守りとして使われたとされ、南部氏当主奥方へ土産物として送られた可能性が考えられる。 ・11月3日に開催した発掘調査現地説明会には県内外から124名の参加があった。 ○ 正寿寺遺跡・佐野平遺跡・西久根遺跡の調査成果 ・正寿寺遺跡では時期不明の溝跡が2条確認された。遺物としては近世の陶磁器が出土した。佐野平遺跡・西久根遺跡では遺構が確認されなかった。 ○ 事業費 12,829千円（国庫補助 6,400千円）		
成果	東北最大級の門柱跡や北東北初の犬形土製品など、全国的にも貴重な発見が相次いだことから、記者会見を2回開催し、その成果は新聞各紙やテレビのニュースで報道された。 今後史跡整備を実施していく上で、重要な建物跡、門跡を確認することができたため、令和2年度策定予定の整備基本設計に調査成果を反映させていく。		
評価と方向性	東北最大級の門柱跡や二階建ての大型建物跡など、聖寿寺館中心区画の様子が徐々に明らかになりつつあり、この成果は今後の発掘調査計画や整備計画へと反映させていく。 平成31年度の調査では北側虎口（虎口1）の調査を実施し、門跡や土橋跡をはじめ、中心区画へと至る通路跡を探る。 また、令和2年3月には平成30・31年度2カ年分の成果をまとめた発掘調査報告書を300部刊行し、全国の図書館等関係各機関に配布する予定である。		

史跡聖寿寺館跡の活用（見学・体験発掘・出前授業等）		事業の評価	◎
（２）文化財の整備及び活用		総合評価	B
概要	史跡聖寿寺館跡の見学や体験発掘を通して、町の歴史を児童・生徒に現地で実際に体感してもらう体験型の学習プログラム。各学校での出前授業では、職員が講師となって、スライドを交えながら町の歴史を解説する。		
実績	○ 体験発掘 小学校6校、山梨県内交流事業1回、史跡ガイド養成講座1回 参加者数228名		
	実施日	実 施 内 容	参加者
	6/24	剣吉小学校	18名
	6/18	名久井小学校	29名
	6/25	福田小学校	33名
	6/29	田子町立上郷小学校	12名
	7/3	向小学校・南部小学校	40名
	7/14	史跡ガイド養成講座	13名
	7/27	山梨県南部町国内交流	83名
	○団体見学 参加者数676名		
	○講演会 11回 参加者 835名		
	実施日	実 施 内 容	実 施 場 所
	4/21	十和田市文化財保護協会講演	十和田市南公民館
	6/3	青森県文化財保護協会総会特別講演	リンクモア平安閣（青森市）
	6/28	臨済宗妙心寺派東北教区花園会地方研修大会記念講演	グランドサンピア八戸
	10/7	東北史学会	弘前大学
	10/19	青森県国民健康保険団体連合会講演	チェリウス
	10/28	旧盛岡藩土桑田講演会	櫻山神社（盛岡市）
	12/5	十和田湖歴史資源ブラッシュアップセミナー講演	十和田市観光交流センター
	12/7	南部小・向小・南部中合同教員研修講演	南部小学校
	12/8	青森県埋蔵文化財発掘調査報告会	青森県総合社会教育センター
	12/16	第5回南部学研究会	南部町立町民ホール
	1/31	三戸ロータリークラブ	田岩本店2Fホール（三戸町）
成果	町内外の小学生が体験発掘や出前授業をとおりて南部氏歴史を体感していた。学校からは継続して体験発掘のニーズがあり、郷土の歴史学習に効果をあげている。史跡聖寿寺館跡案内所がオープンし、町内外の各種団体の見学、交通各社のツアー客の見学者が大幅に増加した。また、近年の発掘調査成果に関連し、南部氏や聖寿寺館跡関連の講演依頼が増加しており、青森市や十和田市、盛岡市で講演を行った。		
評価と方向性	地元の歴史や文化を学ぶことは必要不可欠であり、今後も町内の学校と連携し、児童・生徒に郷土の歴史を学ぶ機会・体験する機会を提供し、郷土に誇りをもてるような郷土史学習プログラムを推進していきたい。		



史跡聖寿寺館跡案内所の運営・管理		事業の評価	◎
(2) 文化財の整備及び活用		総合評価	A
概要	史跡聖寿寺館跡案内所の管理・運営。展示解説。史跡聖寿寺館跡の案内。臨時職員を2名配置。		
実績	○見学者 2, 306名 ○事業費 案内所管理運営 4, 079千円（賃金、消耗品、光熱水費、通信料、各種委託料、備品購入費） 駐車場用地取得 2, 043千円		
成果	史跡聖寿寺館跡案内所は平成29年4月にオープン。臨時職員2名が施設管理や展示室の案内、霊屋拝観業務、史跡聖寿寺館跡の案内、発掘調査報告書の作成に伴う図版作成、遺物整理、会議録の作成、アンケート集計等史跡対策室業務全般の実務作業を担っている。 展示作業としては今年度の発掘調査で出土し、新聞・テレビ等で取上げられた北東北初の大形土製品を公開した。また、展示物の増加に対応するため、展示ケースを1台購入した。また、昨年度製作した聖寿寺館跡プロモーション動画を公開するためのモニタースタンドを1台購入・設置した。 施設面では町文化財や南部ふるさと塾、南部学研究会についての問い合わせに対応するため、案内所事務室に新たにインターネット環境を整備した。 県内はもとより、東北各県や関東、東海、近畿、四国、九州から見学者があった。		
評価と方向性	近隣はもとより遠方からの見学者もあり、施設の認知度が少しずつ高まってきている。 今後もよりいっそう史跡聖寿寺館跡の情報発信・観光拠点としての役割が期待される。 平成31年度からは聖寿寺館跡史跡ガイドの詰所としても利用される予定である。		

史跡対策室関係 No.3 3

伝統芸能・技術の継承事業		事業の評価	○												
(3) 伝統芸能及び技術の継承		総合評価	B												
概要	郷土に根ざして継承されてきた芸能を保護し、さらに後世に引き継ぐために後継者の育成に努める団体に対し助成する。														
実績	<table><tr><td></td><td>実 施 内 容</td><td>事業費</td></tr><tr><td rowspan="4">助成団体</td><td>南部町郷土芸能保存会</td><td>370千円</td></tr><tr><td>無形民俗文化財保存・活用事業（17団体）</td><td>340千円</td></tr><tr><td>無形民俗文化財後継者育成事業（10団体）</td><td>200千円</td></tr><tr><td>郷土芸能後継者育成事業（南部七唄七踊り子ども教室）</td><td>450千円</td></tr></table>				実 施 内 容	事業費	助成団体	南部町郷土芸能保存会	370千円	無形民俗文化財保存・活用事業（17団体）	340千円	無形民俗文化財後継者育成事業（10団体）	200千円	郷土芸能後継者育成事業（南部七唄七踊り子ども教室）	450千円
		実 施 内 容	事業費												
	助成団体	南部町郷土芸能保存会	370千円												
		無形民俗文化財保存・活用事業（17団体）	340千円												
		無形民俗文化財後継者育成事業（10団体）	200千円												
郷土芸能後継者育成事業（南部七唄七踊り子ども教室）		450千円													
○ 第2・第4土曜日に町内公民館で南部七唄・七踊りこども教室を実施 町郷土芸能保存会の会員が講師で指導（町内の小・中学生が参加）															
○ 毎年2月の南部地方えんぶりに補助金を交付 230千円															
成果	町指定の無形民俗文化財の継承活動のために有効に活用され、後継者の育成に役立っている。														
評価と方向性	伝統芸能の保存と次世代への継承には必要不可欠な事業であり、南部町郷土芸能保存会や郷土芸能の継承者より事業の継続の要望が寄せられており、今後も継続して助成していく。														

趣味の教室		事業の評価	◎								
(3) 多様な学習機会の拡充		総合評価	A								
概要	自己の知識・能力の向上を図ることを目的に、町民が興味・関心のある教室を開講する。										
実績	○ 町民の希望による教室 25講座 生け花、エアロビクス、カラオケ、女声コーラス、混声コーラス、フラダンス、シルバークーラス、南部詩吟、社交ダンス、写真、太極拳、陶芸、ヨガ、パソコン、舞踊フレッシュレクダンス、パッチワーク、リフレッシュ体操、名川カラオケ研究ブックトーク、吹矢、合気道、紙芝居、まべち会詩吟、ヘルスアップ										
	<table><tr><td>登録者数</td><td>388名</td></tr><tr><td>開催期間</td><td>5月～2月（月2回以上開催）</td></tr><tr><td>開催場所</td><td>町内公民館、体育館、B&G 海洋センター、伝承館等</td></tr><tr><td>事業費</td><td>2,157千円（講師謝金）</td></tr></table>			登録者数	388名	開催期間	5月～2月（月2回以上開催）	開催場所	町内公民館、体育館、B&G 海洋センター、伝承館等	事業費	2,157千円（講師謝金）
	登録者数	388名									
	開催期間	5月～2月（月2回以上開催）									
	開催場所	町内公民館、体育館、B&G 海洋センター、伝承館等									
事業費	2,157千円（講師謝金）										
成果	受講者のニーズに沿った教室であり、ほとんどの教室で参加者が増えており、学習環境もよく生きがいをもって学習している。受講生による実行委員会が組織され、3月には学習成果を披露する発表会を行った。										
評価と方向性	閉講式の際に次年度の受講希望をとっているが、ほとんどの教室が継続希望であり、各教室の参加者も増加しているため、継続が望まれる。 また、ステージ発表ができない教室は、展示発表など工夫して発表会を行っていく。										

社会教育課関係（公民館）No.35

アロマフィットネス教室		事業の評価	○
(3) 多様な学習機会の拡充		総合評価	B
概要	アロマセラピーのリラックス&リフレッシュ効果と、簡単にできるエクササイズを結びつけた運動をとおして、健康維持の一助となるよう開催する。		
実績	○ アロマフィットネスに関する講義と演習		
	登録者数	21名	
	参加者数	延べ158名	
	開催回数	10回（8／29～10／31）	
	開催場所	福地公民館	
	事業費	100千円(講師謝金)	
成果	ストレッチを含む運動と原産地や効用・注意点など香りについて講義を受け、楽しみながら学習ができた。また、アロマの利点は体と心に対する健康作用だけでなく、シンプルな運動に楽しさと潤いを与えてくれた。なお、参加者が友人とアロマについて話す機会が増え、興味を持った人が参加するようになった。		
評価と方向性	アロマセラピーの知識を学びながら同時に身体も鍛えていくことができ、さらには生活の質も向上させるため、生涯にわたって続けられるという効果が期待できる。 アロマについて学び、香りを楽しみ、運動をして健康づくりができるということで、健康管理に対する意識を高めることができるため次年度以降も継続が望まれる。		

英会話教室（初級）		事業の評価	○
（３）多様な学習機会の拡充		総合評価	B
概要	高校生以上の町民を対象に、国際人としての資質の向上を図るため、英語に親しみ、英語での簡単な日常会話ができるように開催する。		
実績	○ 英会話に関する講義と演習		
	登録者数	10名	
	参加者数	延べ92名	
	開催回数	12回（9／5～11／24）	
	開催場所	福地公民館	
	事業費	204千円(講師謝金)	
成果	受講生間に理解度の差が見られたが、全体的には明るい雰囲気のなかで受講していた。参加者の学習態度は極めて意欲的で、外国人講師による本物の英語を学ぶ良い機会となった。		
評価と方向性	毎回テーマに沿った学習方法を実施しており内容は充実している。（発音・手話・歌） 参加者の多くは、普段の生活では直接外国の方と会話する機会は少なく心配していますが、米軍三沢基地在住者を講師としている当教室で学んでいくうちに、徐々に楽しさを感じ、もつと勉強し英会話がうまくできるようになりたいと言われることから、参加者は減少したものの継続が望まれる。		

社会教育課関係（公民館）No.3 7

ルーシーダットン教室		事業の評価	○
(3) 多様な学習機会の拡充		総合評価	B
概要	ルーシーダットン（タイ式ヨガ）の特徴である呼吸法を実践しながら様々なポーズを学び、体全体の血液やリンパの流れをスムーズにし、健康維持の一助となるよう開催する。		
実績	○ ルーシーダットンに関する講義と実習		
	登録者数	23名	
	参加者数	延べ150名	
	開催回数	10回（10／15～12／17）	
	開催場所	福地公民館	
	事業費	100千円(講師謝金)	
成果	独自の呼吸法とポーズをあわせることで血流が良くなり、あらゆる体調不良が改善され、他にも体の歪みを治す、筋力アップ、柔軟性向上、代謝アップによるダイエット効果が得られるなど、健康の維持管理に対する意識が高められた。		
評価と方向性	「本来あるべき状態に戻す」ことを目的としているので、ポーズは優しいものが多く、柔軟性や筋力に自信がない方も安全に楽しめる教室である。精神面の安定方法や健康であるための自己治癒力を身につけ、健康管理に対する意識が高められるため次年度以降も継続が望まれる。		

第12回 町民運動会		事業の評価	○
(4) 多様な生涯スポーツの振興		総合評価	B
概要	町民の健康増進と町民相互の親睦を深め健康で明るく住みよい町づくりに寄与し、明日への活力を養うことを目的に開催。 小学生以上の町民が参加し、15種目にわたり地区対抗戦を行う。		
実績	※ 台風接近による悪天候のため中止		
	参加チーム数（予定）	18チーム	
	開催日（予定）	平成30年9月30日	
	開催場所（予定）	南部中学校	
	事業費	1,273千円	
成果	台風接近による悪天候のため中止となったが、運動会に向けて各チームが練習を行うなど、地域コミュニティ力の向上が図られた。		
評価と方向性	悪天候のため中止となったが、事前に練習するチームが増え、各チームの融和が図られた。全町民が一堂に会して実施されるビックイベントであり、今後もスポーツ推進委員と連携し継続して実施していく。		

社会教育課関係（体育館）No.39

第13回 町民歩け歩け運動大会		事業の評価	○										
(4) 多様な生涯スポーツの振興		総合評価	B										
概要	町民の体力つくりと参加者相互の親睦を深めるとともに、日常生活の中で歩くことの重要性を再認識することで、健康で明るい町づくりに寄与することを目的に毎年度開催しており、平成30年度から、事業の企画・運営等を「一般社団法人型クラブななっち」に業務委託している。 平成30年度は、岩手県盛岡市 高松の池散策で募集し、行政バス3台にて実施場所へ移動、設定した目標地点まで全参加者でトレッキングする。												
実績	<table><tr><td>対 象 者</td><td>南部町民（高校生以上）</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>63名</td></tr><tr><td>実 施 日</td><td>平成30年7月1日（日）</td></tr><tr><td>実施場所</td><td>岩手県盛岡市 高松の池</td></tr><tr><td>事 業 費</td><td>88千円（スタッフ謝礼・保険等）</td></tr></table>			対 象 者	南部町民（高校生以上）	参加者数	63名	実 施 日	平成30年7月1日（日）	実施場所	岩手県盛岡市 高松の池	事 業 費	88千円（スタッフ謝礼・保険等）
対 象 者	南部町民（高校生以上）												
参加者数	63名												
実 施 日	平成30年7月1日（日）												
実施場所	岩手県盛岡市 高松の池												
事 業 費	88千円（スタッフ謝礼・保険等）												
成果	この事業は、町民が歩くことを日常化することで、健康維持・増進につなげる目的で行っており、参加するために、日常のランニングやウォーキングを取り入れた方もいることから、事業の成果と考えている。 また、毎年参加している方々は、初めて参加する方に声がけ誘導をする姿も見られるなど、参加者相互の親睦を深めることができた。												
評価と方向性	受託者「一般社団法人型クラブななっち」では、事業後に反省点や確認事項をまとめ、また、参加者よりアンケートを取るなど、より良い事業になるよう検討している。 歩くことは手軽な運動であり、町民の体力づくり、健康の維持・増進に必要と考えられることから、参加者の意見を参考にコースの計画や内容などを改善していく。												

第8回総合優勝制スポーツ大会			事業の評価◎		
(4) 多様な生涯スポーツの振興			総合評価B		
概要	6競技種目別における町内対抗スポーツ大会。 結果発表及び表彰式は、町民運動会で行う。 グラウンドゴルフ大会から事業の企画・運営等を「一般社団法人型クラブななっち」に業務委託している。				
実績	○ 対象者 一般成人による町民運動会チーム単位の18チームが参加対象 (バウンドテニス大会から始まり、ペタンク大会で終了する。)				
	○ 事業費 108千円(審判謝礼・保険料等)				
	種目	開催日	開催場所	参加チーム	優勝チーム
	1.バウンドテニス大会	平成29年12月3日	名川B&G海洋センター	13	あかね
	2.軟式バレーボール大会	平成30年1月28日	町民体育館	男子14 女子13	男:下名久井 女:あかね
	3.ユニホック大会	平成30年2月25日	町民体育館	14	剣虎
	4.グラウンドゴルフ大会	平成30年5月20日	ふるさと運動公園	15	東
	5.壮年ソフトボール大会	平成30年6月24日	南部中学校 他	12	あかね
	6.ペタンク大会	平成30年7月8日	すぱーく・ながわ	15	剣吉・森越
○対象期間 平成29年12月～平成30年7月					
○結 果 優 勝 あかね チーム 準優勝 杉 沢 チーム 第3位 東 チーム					
成果	表彰を行うことによって、各地域に浸透し、大会が近くなると、自主的に練習するチームが増えている。 勝負の試合のため、個々の競技力の向上がみられる。				
評価と方向性	今後も、更に意識の向上を高め大会を盛り上げるとともに、体育協会加盟団体と連携を密にし、また、全チームが参加するよう、町スポーツ推進委員及び指導員と連携し種目等の競技見直し等を行い、継続して実施していく。				

ニュースポーツ in スクール		事業の評価 ○			
(4) 多様な生涯スポーツの振興		総合評価 B			
概要	青少年のスポーツ活動の充実とスポーツの普及を図るため、町内の小・中学校のクラブ活動に応じてニュースポーツ in スクール教室を実施する。 平成30年度から、事業の企画・運営等を「一般社団法人型クラブななっち」に業務委託している。				
実績	対 象 者	町内小・中学生			
	講 師	町スポーツ推進委員及び指導員、協会員、指導者			
	依 頼 者	名久井小学校、向小学校の4年生から6年生（クラブ活動の一環としてのニュースポーツ in スクールである）			
	参加者数	延べ229名（名久井小ニュースポーツクラブ11名） （向小ニュースポーツクラブ12名）			
	状 況	学校名	種 目 名	実 施 日	回 数
		名 久 井 小 学 校	バウンドテニス	5／24～ 9／13	4回
			ユニホック	10／11～11／15	4回
			ドッジビー	12／13～ 2／ 7	3回
		向小学校	タグラグビー	6／ 4～ 7／ 2	3回
			軟式バレー	9／ 3	1回
スポンジテニス			11／ 5～11／26	2回	
吹矢			12／17	1回	
ユニホック			1／28	1回	
ペタンク	2／ 4		1回		
開催場所	名川 B&G 海洋センターアリーナ（名久井小学校ニュースポーツクラブ） 向小学校体育館（向小ニュースポーツクラブ）				
事 業 費	128千円（講師謝礼）				
成果	名久井小学校及び向小学校の4年生から6年生が加入する「ニュースポーツクラブ」からの要望があり、ニュースポーツ in スクールを行っている。 ニュースポーツ in スクールで学んだ種目を、「ニュースポーツ移動教室」の親子レクリエーションで実施するなど多様な生涯スポーツの普及につながっている。				
評価と方向性	受託者「一般社団法人型クラブななっち」では、事業後に反省点や確認事項をまとめ、また、参加者よりアンケートを取るなど、より良い事業になるよう検討している。 「ニュースポーツ in スクール」は、誰でも気軽に参加できることから、町内小・中学校の児童生徒には効果的な事業と考える。 今後も他の小・中学校が利用できるよう別の種目等も含め、積極的な広報活動を行い、継続して実施していく。				

ニュースポーツ移動教室		事業の評価		◎																																																		
(4) 多様な生涯スポーツの振興		総合評価		B																																																		
概要	ニュースポーツの普及を通して町民の健康維持・増進を図ることを目的に、町内の各種団体からの要望に応じ、その会場に出向きニュースポーツの実技指導を行う。 平成30年度から、事業の企画・運営等を「一般社団法人型クラブななっち」に業務委託している。																																																					
実績	○ 対象者 町内各種団体 ○ 参加者数 370名 ○ 講師 南部町スポーツ推進委員及び指導員 ○ 事業費 66千円（講師謝礼） ○ 事業内容																																																					
	<table><tr><th>依頼者</th><th>開催日</th><th>場所</th><th>種目</th><th>参加者数</th></tr><tr><td>南部小学校1年生PTA (親子レクリエーション)</td><td>6／16</td><td>南部小体育館</td><td>ドッジビー</td><td>30名</td></tr><tr><td>向小学校4年生PTA (親子レクリエーション)</td><td>7／ 7</td><td>向小体育館</td><td>吹矢 カローリング</td><td>30名</td></tr><tr><td>向小学校1年生PTA (親子レクリエーション)</td><td>7／14</td><td>向小体育館</td><td>ドッジビー</td><td>30名</td></tr><tr><td>南部中学校3年生PTA (親子レクリエーション)</td><td>7／21</td><td>町民体育館</td><td>キンボール</td><td>60名</td></tr><tr><td>南部中学校2年生PTA (親子レクリエーション)</td><td>7／22</td><td>町民体育館</td><td>吹矢・ペタンク カローリング ドッジビー</td><td>50名</td></tr><tr><td>名川中学校1年生PTA (親子レクリエーション)</td><td>8／19</td><td>名中体育館</td><td>キンボール</td><td>80名</td></tr><tr><td>南部小学校2年生PTA (親子レクリエーション)</td><td>9／ 1</td><td>南部小体育館</td><td>ユニホック ドッジビー</td><td>30名</td></tr><tr><td>剣吉小学校4年生PTA (親子レクリエーション)</td><td>9／ 1</td><td>剣小体育館</td><td>カローリング</td><td>30名</td></tr><tr><td>名久井小学校4年生PTA (親子レクリエーション)</td><td>9／29</td><td>名川 B&G 海洋センター</td><td>ドッジビー</td><td>30名</td></tr></table>				依頼者	開催日	場所	種目	参加者数	南部小学校1年生PTA (親子レクリエーション)	6／16	南部小体育館	ドッジビー	30名	向小学校4年生PTA (親子レクリエーション)	7／ 7	向小体育館	吹矢 カローリング	30名	向小学校1年生PTA (親子レクリエーション)	7／14	向小体育館	ドッジビー	30名	南部中学校3年生PTA (親子レクリエーション)	7／21	町民体育館	キンボール	60名	南部中学校2年生PTA (親子レクリエーション)	7／22	町民体育館	吹矢・ペタンク カローリング ドッジビー	50名	名川中学校1年生PTA (親子レクリエーション)	8／19	名中体育館	キンボール	80名	南部小学校2年生PTA (親子レクリエーション)	9／ 1	南部小体育館	ユニホック ドッジビー	30名	剣吉小学校4年生PTA (親子レクリエーション)	9／ 1	剣小体育館	カローリング	30名	名久井小学校4年生PTA (親子レクリエーション)	9／29	名川 B&G 海洋センター	ドッジビー	30名
	依頼者	開催日	場所	種目	参加者数																																																	
	南部小学校1年生PTA (親子レクリエーション)	6／16	南部小体育館	ドッジビー	30名																																																	
	向小学校4年生PTA (親子レクリエーション)	7／ 7	向小体育館	吹矢 カローリング	30名																																																	
	向小学校1年生PTA (親子レクリエーション)	7／14	向小体育館	ドッジビー	30名																																																	
	南部中学校3年生PTA (親子レクリエーション)	7／21	町民体育館	キンボール	60名																																																	
	南部中学校2年生PTA (親子レクリエーション)	7／22	町民体育館	吹矢・ペタンク カローリング ドッジビー	50名																																																	
	名川中学校1年生PTA (親子レクリエーション)	8／19	名中体育館	キンボール	80名																																																	
	南部小学校2年生PTA (親子レクリエーション)	9／ 1	南部小体育館	ユニホック ドッジビー	30名																																																	
剣吉小学校4年生PTA (親子レクリエーション)	9／ 1	剣小体育館	カローリング	30名																																																		
名久井小学校4年生PTA (親子レクリエーション)	9／29	名川 B&G 海洋センター	ドッジビー	30名																																																		
成果	ニュースポーツの普及促進のため、指導者が出向き、ニュースポーツを体験できるので利用者には好評である。 内容は、団体等の要望に沿って実施しており、特に、学校における「親子レクリエーション」に活用されている。また、新たに実施した各学校の学年PTAや昨年度に引き続き実施した学年PTAがあり、ニュースポーツの普及促進が図られている。																																																					
評価と方向性	受託者「一般社団法人型クラブななっち」では、事業後に反省点や確認事項をまとめ、また、参加者よりアンケートを取るなど、より良い事業になるよう検討している。 今後も町民のニーズにあった種目の検討など、町スポーツ推進委員及び指導員並びに町体育協会と連携を図りながら継続していく。																																																					

転倒・寝たきり予防教室		事業の評価◎														
(4) 多様な生涯スポーツの振興		総合評価A														
概要	町内3地区を会場に、介護サービスを受けていない高齢者を対象とした転倒予防プログラム及び各種測定を実施した。高齢者の介護予防にもつながることから健康福祉課と共催している。															
実績	<table><tr><td>対象者</td><td>介護サービスを受けていない60歳以上の町民</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>南部地区：18名(延べ141名) 福地地区：38名(延べ303名) 名川地区：39名(延べ290名)</td></tr><tr><td>開催回数</td><td>合計36回(12回／1地区)</td></tr><tr><td>開催期間 及び 会場</td><td>【第1回】平成30年5月～7月 会場：ぼたんの里・町民体育館(南部地区) 【第2回】平成30年9月～11月 会場：福寿館(福地地区) 【第3回】平成31年1月～3月 会場：名川B&G海洋センター(名川地区)</td></tr><tr><td>事業内容</td><td>介護予防運動、歩行指導、筋力トレーニング、ストレッチング、リズム体操、レクリエーション、ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、カローリング)、各種講話(保健・栄養指導等)、骨密度・筋肉量計測</td></tr><tr><td>講師</td><td>八戸学院大学2名、運動指導士4名、栄養士1名 計7名</td></tr><tr><td>事業費</td><td>190千円(講師謝礼、保険料)</td></tr></table>		対象者	介護サービスを受けていない60歳以上の町民	参加者数	南部地区：18名(延べ141名) 福地地区：38名(延べ303名) 名川地区：39名(延べ290名)	開催回数	合計36回(12回／1地区)	開催期間 及び 会場	【第1回】平成30年5月～7月 会場：ぼたんの里・町民体育館(南部地区) 【第2回】平成30年9月～11月 会場：福寿館(福地地区) 【第3回】平成31年1月～3月 会場：名川B&G海洋センター(名川地区)	事業内容	介護予防運動、歩行指導、筋力トレーニング、ストレッチング、リズム体操、レクリエーション、ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、カローリング)、各種講話(保健・栄養指導等)、骨密度・筋肉量計測	講師	八戸学院大学2名、運動指導士4名、栄養士1名 計7名	事業費	190千円(講師謝礼、保険料)
対象者	介護サービスを受けていない60歳以上の町民															
参加者数	南部地区：18名(延べ141名) 福地地区：38名(延べ303名) 名川地区：39名(延べ290名)															
開催回数	合計36回(12回／1地区)															
開催期間 及び 会場	【第1回】平成30年5月～7月 会場：ぼたんの里・町民体育館(南部地区) 【第2回】平成30年9月～11月 会場：福寿館(福地地区) 【第3回】平成31年1月～3月 会場：名川B&G海洋センター(名川地区)															
事業内容	介護予防運動、歩行指導、筋力トレーニング、ストレッチング、リズム体操、レクリエーション、ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、カローリング)、各種講話(保健・栄養指導等)、骨密度・筋肉量計測															
講師	八戸学院大学2名、運動指導士4名、栄養士1名 計7名															
事業費	190千円(講師謝礼、保険料)															
成果	年間の運動指導を希望する参加者が増加し、より多くの高齢者に対し長期にわたる運動や、健康に関する学習の機会を提供し、参加者の新たなコミュニティの場としても機能した。さらに、県カスタム・メイド講座を活用し、参加者に新たな内容を提供でき、事業のマンネリ化を防ぐことができた。															
評価と方向性	広報による全町への周知や参加者の口コミや友人知人等への紹介・勧誘もあり、大変好評をいただき、また、新規参加者も獲得できた。 県カスタム・メイド講座が参加者に好評だったため、令和元年度も引き続き依頼し、内容の充実を図り拡充していきたい。															

水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム		事業の評価	○
(3) 多様な学習機会の拡充		総合評価	B
概要	夏に偏りがちな「水」に親しむ体験活動を、年間を通じて体験できるよう、自然環境、水生生物、安全学習、海洋性レクリエーション等のテーマから、導入校ごとにプログラムを選択し実施する。		
実績	対象者数	福田小学校：4学年 32名 名久井小学校：4学年 26名 名川南小学校：1・2学年 5名 3・4学年 12名 5・6学年 11名 南部小学校：4学年 18名	
	開催回数	福田小学校：2回 名久井小学校：5回 名川南小学校：3回 南部小学校：2回	
	開催期間	平成30年4月～平成31年3月	
	開催場所	・福田小学校 如来堂川、名川B&G海洋センタープール ・名久井小学校 如来堂川、名川B&G海洋センタープール、名久井小学校 ・名川南小学校 名川B&G海洋センタープール ・南部小学校 如来堂川、名川B&G海洋センタープール	
	事業内容	さけ稚魚放流体験、さけの卵からの飼育、水棲生物採取、水辺の安全教室（カヌー体験、OPヨット体験、着衣泳、ライフジャケット浮遊体験、他）	
	事業費	0円	
成果	身近にある川や山といった屋外での体験的学習を通して環境保全意識の向上が図られた。グループごとに役割を持ちながら与えられた課題を達成していく中で、社会性が育まれるとともに、身近な環境について興味を抱くことで郷土への愛情を高めることができた。		
評価と方向性	現時点で、町内4校が当事業を導入しているが、他の小学校にも導入可能な体制を検討する余地がある。各プログラムにおいて、参加児童の学習意欲は非常に高く、積極性の向上にもつながっているため、今後も改善を図りつつ事業を継続していく。		

B & G全国ジュニア水泳競技大会出場推進事業		事業の評価	○
(4) 多様な生涯スポーツの振興		総合評価	B
概要	全国の B&G 海洋センターにて日頃から水泳を練習している青少年を対象に、競技力の向上と参加者相互の連携と親睦を図ることを目的に開催される大会へ、青森県予選大会にてB & G財団が定める標準記録を突破した当町代表選手 2名を参加させた。当町海洋センター職員 1 名が選手に帯同し、青森県連絡協議会チームの一員として従事。		
実績	○ 開催日及び会場 平成30年8月18日 東京辰巳国際水泳場 ○ 事業費 80千円 (参加者補助金35千円 引率職員旅費45千円) ○ 結 果 中学校男子 バタフライ50m 4位		

社会教育課関係 (B & G) No.4 6

B＆Gスポーツ大会青森県大会推進事業		事業の評価		○	
(4) 多様な生涯スポーツの振興		総合評価		B	
概要	B＆G財団地域海洋センター青森県連絡協議会が主催する水泳大会に、町内児童生徒6名を参加させた。当町海洋センター職員3名が選手を引率するとともに、大会当日はスタッフとして従事。				
実績	○ 開催日及び会場	平成30年7月31日 鶴田町B＆G海洋センタープール			
	○ 事業費	2千円(有料道路通行料)			
	○ 結 果	6種目入賞 うち優勝 個人3種目			
		3位 個人2種目			
		3位 リレー2種目			
	参加状況	学校名	学年	性別	参加人数
		福田小学校	4. 6	女	2名
		名久井小学校	3. 6	女	2名
		南部小学校	6	女	1名
		名川中学校	2	男	1名
		合 計			6名
成果	他市町村の選手と競い合いながら日々の練習の成果を発揮する機会となり、参加者自身の水泳競技を継続するうえでの自信となった。				
評価と方向性	他市町村の選手と競技・交流する貴重な機会であるため、今後も継続して選手を参加させていく。				

小学校水泳教室		事業の評価	◎																																
(4) 多様な生涯スポーツの振興		総合評価	B																																
概要	水や水泳をよく理解し、水泳に対する興味を持ってもらうとともに、泳力の向上を図るために、町内小学校から授業での水泳指導依頼があった場合に、B&G海洋センター職員が指導・助言などを行う。																																		
実績	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">参加延べ人数</td><td>名川南小学校</td><td>5～6年生</td><td>22名</td></tr> <tr> <td>名久井小学校</td><td>3～6年生</td><td>122名</td></tr> <tr> <td>剣吉小学校</td><td>3～6年生</td><td>50名</td></tr> <tr> <td rowspan="3">開催回数</td><td>名川南小学校</td><td>全</td><td>2回</td></tr> <tr> <td>名久井小学校</td><td>全</td><td>10回</td></tr> <tr> <td>剣吉小学校</td><td>全</td><td>4回</td></tr> <tr> <td>開催期間</td><td colspan="3">6月～7月</td></tr> <tr> <td>開催場所</td><td colspan="3">名川B&G海洋センタープール</td></tr> <tr> <td>事業費</td><td colspan="3">0円</td></tr> </table>			参加延べ人数	名川南小学校	5～6年生	22名	名久井小学校	3～6年生	122名	剣吉小学校	3～6年生	50名	開催回数	名川南小学校	全	2回	名久井小学校	全	10回	剣吉小学校	全	4回	開催期間	6月～7月			開催場所	名川B&G海洋センタープール			事業費	0円		
参加延べ人数	名川南小学校	5～6年生	22名																																
	名久井小学校	3～6年生	122名																																
	剣吉小学校	3～6年生	50名																																
開催回数	名川南小学校	全	2回																																
	名久井小学校	全	10回																																
	剣吉小学校	全	4回																																
開催期間	6月～7月																																		
開催場所	名川B&G海洋センタープール																																		
事業費	0円																																		
成果	参加校の教諭と連携し、児童の泳力に応じて楽しめるような指導を行い、中高学年においてはクロールの息継ぎ習得やフォーム修正をすることができた。																																		
評価と方向性	平成30年度は、名川地区3校からの指導依頼であったが、今後も全町内の小学校への周知徹底を図り、水泳指導の依頼があった際には、各校担当教諭と連携し、安全で楽しい水泳指導をとおして泳力の向上に努め、継続して実施していく。																																		

第5回南部町駅伝競走大会		事業の評価	◎
(4) 多様な生涯スポーツの振興		総合評価	B
概要	1本のたすきを繋ぐことにより仲間との絆を深め、また、選手と応援する人の一体感、元気、感動を生み出し、地域の活性化を図る。		
実績	参加チーム	○ 町内小学校 18チーム 向小2、名久井小4、南部小1、福田小5、剣吉小2、福地小1 名川南小1、岩手県山田町小学生チーム2（招待） ○ 三戸郡中学校 16チーム 名川中5、福地中3、南部中 1、田子中3、五戸中3、 三戸中1 ○ 一般クラブ 2チーム 合計 36チーム	
	開催日	平成30年11月4日	
	開催場所 及び コース概要	○開催場所 すばーくながわ（スタート及びフィニッシュ） ○コース概要 ●町内小学校の部 及び 一般クラブの部 全5区間、約11km ※1周2.2kmの周回コース ※女子指定区間は第1区及び第2区 ●三戸郡下中学校の部 全5区間、約14km ※1周2.8kmの周回コース	
	事業費	336千円（需用費等） 参加料1チーム1,000円、計34,000円 （山田町2チーム分を除く）	
	結果	●町内小学校の部 優勝：福田小Aチーム ●三戸郡下中学校の部 優勝：名川中Aチーム ●一般クラブの部 優勝：むかしの旋風チーム	
成果	小中学校の部においては、陸上競技の普及と児童・生徒等の競技力の向上が図られ、また、団体競技の一体感を体験することにより、仲間意識の高揚が図られた。一般クラブの部においては、職場や地域の交流の場となった。また、補欠選手もオープン参加により出場できるようにするなど、多くの参加者に出場の機会を与えるようにしている。		
評価 と方 向性	小中学校等から多くのチームが参加し、競技力向上の場としてはもちろん、交流の場になっている。また、招待している山田町チームとの交流や、他地域から参加できる一般クラブの部も、駅伝競技を通じた地域間の交流の場として一役を担っている。今後も、安全面などに配慮し継続していく。		

第26回青森県民駅伝競走大会実行委員会補助金事業		事業の評価	◎																																																																												
(4) 多様な生涯スポーツの振興		総合評価	B																																																																												
概要	青森県民駅伝競走大会南部町実行委員会に対して補助金を交付し、町内中学生以上の候補選手を選考し、強化練習や試走等を実施する。																																																																														
実績	平成30年4月29日に南部町実行委員会を組織してから大会まで、練習会と2回の試走会を実施し、大会当日は、実行委員等計25名が選手をサポートした。 ○参加チーム数 40市町村 ○登録選手 15名(男11名・女4名) ○候補選手 38名(男24名・女14名) ○開催日 9月2日 ○開催場所 青森市内 ○事業費 1,220千円 (実行委員会への町の補助金) ※うち県補助金:60千円) ○成績 総合 第4位 (町の部2年連続 第1位) <table border="1"> <thead> <tr> <th>所 属</th><th>男 (名)</th><th>女 (名)</th><th>合計 (名)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>福 地 中 学 校</td><td>5</td><td>4</td><td>9</td></tr> <tr><td>名 川 中 学 校</td><td>3</td><td>4</td><td>7</td></tr> <tr><td>南 部 中 学 校</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>杉 沢 中 学 校</td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>青 森 山 田 高 校</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>八 戸 学 院 光 星 高 校</td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>八 戸 西 高 校</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>名 久 井 農 業 高 校</td><td>3</td><td></td><td>3</td></tr> <tr><td>駒 澤 大 学</td><td>2</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>札 幌 学 院 大 学</td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>駿 河 台 大 学</td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>自 衛 隊 体 育 学 校</td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>中 学 校 (講 師)</td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>ス ク ー ル サ ポ ー タ ー</td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>は ら だ ク リ ニ ッ ク</td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>愛 三 工 業</td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>南 部 町 役 場</td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>合 計</td><td>24</td><td>14</td><td>38</td></tr> </tbody> </table>			所 属	男 (名)	女 (名)	合計 (名)	福 地 中 学 校	5	4	9	名 川 中 学 校	3	4	7	南 部 中 学 校	1	2	3	杉 沢 中 学 校		1	1	青 森 山 田 高 校	1	1	2	八 戸 学 院 光 星 高 校	1		1	八 戸 西 高 校	1	1	2	名 久 井 農 業 高 校	3		3	駒 澤 大 学	2		2	札 幌 学 院 大 学	1		1	駿 河 台 大 学	1		1	自 衛 隊 体 育 学 校	1		1	中 学 校 (講 師)	1		1	ス ク ー ル サ ポ ー タ ー	1		1	は ら だ ク リ ニ ッ ク		1	1	愛 三 工 業	1		1	南 部 町 役 場	1		1	合 計	24	14	38
所 属	男 (名)	女 (名)	合計 (名)																																																																												
福 地 中 学 校	5	4	9																																																																												
名 川 中 学 校	3	4	7																																																																												
南 部 中 学 校	1	2	3																																																																												
杉 沢 中 学 校		1	1																																																																												
青 森 山 田 高 校	1	1	2																																																																												
八 戸 学 院 光 星 高 校	1		1																																																																												
八 戸 西 高 校	1	1	2																																																																												
名 久 井 農 業 高 校	3		3																																																																												
駒 澤 大 学	2		2																																																																												
札 幌 学 院 大 学	1		1																																																																												
駿 河 台 大 学	1		1																																																																												
自 衛 隊 体 育 学 校	1		1																																																																												
中 学 校 (講 師)	1		1																																																																												
ス ク ー ル サ ポ ー タ ー	1		1																																																																												
は ら だ ク リ ニ ッ ク		1	1																																																																												
愛 三 工 業	1		1																																																																												
南 部 町 役 場	1		1																																																																												
合 計	24	14	38																																																																												
成果	陸上競技の普及と選手のレベルアップのほか、町民の一体感を盛り上げ、町勢の発展とスポーツの振興が図られた。																																																																														
評価と方向性	県内全市町村が参加し、中学生から一般までを対象とした歴史のある大会であるため、陸上競技の普及・振興につながっている。また、県民及び町民の関心は高く、今後の当町陸上競技の発展と、競技者の技術向上・士気高揚を図るため継続していく。																																																																														

岩手県山田町マリンスポーツ体験交流会		事業の評価	◎		
(4) 多様な生涯スポーツの振興		総合評価	B		
概要	町内小学生が一堂に会し、岩手県山田町の児童との交流を通じて人間形成と体力向上を図るとともに、心の豊かさを育てることを目的とする。岩手県山田町B＆G海洋センターの協力を得て、海洋性レクリエーション体験や水辺の安全学習などを実施している。				
実績	○ 開催日 平成30年8月7日～8日				
	○ 開催場所 岩手県山田町B＆G海洋センター艇庫 宿泊：岩手県山田町 光温泉 岳泉荘				
	○ 対象 町内小学生4年生から6年生までの男女				
	○ 参加者 14名				
	○ 事業費 65千円（旅費・報償費）				
	参加状況	学校名	学年	性別	参加人数
		名川南小学校	6	女	1
		名久井小学校	5	女	6
		剣吉小学校	4	男	1
			4. 5	女	4
南部小学校		6	女	1	
福田小学校		5	男	1	
合 計			14名		
成果	岩手県山田湾での海洋性レクリエーションや水辺の安全教室をとおして、児童は海の楽しさや危険な部分を肌で感じ、水難に対する自助意識を養うことができた。また、宿泊での団体行動や山田町の児童との交流により、団体での個人のあり方や仲間への思いやりの心を養う機会を提供できた。				
評価と方向性	海がない町に住む児童にとって貴重な経験であるため、今後も継続して心身を養う機会を提供していきたい。				

第34回うぐいすマラソン大会		事業の評価		◎																																																																											
(4) 多様な生涯スポーツの振興		総合評価		B																																																																											
概要	健康増進と参加者相互の親睦と融和を図るため開催。 男女各3km、5km、10kmのコースで体力に応じた種目別区分を設定。 町広報誌と町ホームページにて大会開催を周知。																																																																														
実績	○ 対象者 健康で、所定の距離を完走できる者																																																																														
	○ 申込者数 854名（平成29年度872名）																																																																														
	○ 参加者数 690名（平成29年度720名）うち町民参加者数170名																																																																														
	○ 開催日 平成30年4月22日																																																																														
	○ 開催場所 ふくち運動公園多目的広場																																																																														
	○ 事業費 448千円																																																																														
	○ 天候 晴れ																																																																														
	○ 参加料 無料																																																																														
	<table><tr><th colspan="2">コース</th><th>申込者（名）</th><th>参加者（名）</th><th>うち町民（名）</th></tr><tr><td>A</td><td>小学校3年生以下男子3km</td><td>51</td><td>48</td><td>24</td></tr><tr><td>B</td><td>小学校3年生以下女子3km</td><td>32</td><td>29</td><td>18</td></tr><tr><td>C</td><td>小学校4～6年生男子3km</td><td>80</td><td>63</td><td>32</td></tr><tr><td>D</td><td>小学校4～6年生女子3km</td><td>66</td><td>58</td><td>29</td></tr><tr><td>E</td><td>中学生男子3km</td><td>28</td><td>16</td><td>7</td></tr><tr><td>F</td><td>中学生女子3km</td><td>15</td><td>7</td><td>2</td></tr><tr><td>G</td><td>高校・一般男子3km</td><td>51</td><td>39</td><td>11</td></tr><tr><td>H</td><td>高校・一般女子3km</td><td>32</td><td>22</td><td>2</td></tr><tr><td>I</td><td>高校・一般男子5km</td><td>97</td><td>81</td><td>2</td></tr><tr><td>J</td><td>高校・一般女子5km</td><td>19</td><td>15</td><td>2</td></tr><tr><td>K</td><td>高校・一般男子10km</td><td>251</td><td>199</td><td>11</td></tr><tr><td>L</td><td>高校・一般女子10km</td><td>35</td><td>27</td><td>0</td></tr><tr><td>M</td><td>誰でも参加（計測なし）3km</td><td>97</td><td>86</td><td>30</td></tr><tr><td colspan="2">計</td><td>854</td><td>690</td><td>170</td></tr></table>				コース		申込者（名）	参加者（名）	うち町民（名）	A	小学校3年生以下男子3km	51	48	24	B	小学校3年生以下女子3km	32	29	18	C	小学校4～6年生男子3km	80	63	32	D	小学校4～6年生女子3km	66	58	29	E	中学生男子3km	28	16	7	F	中学生女子3km	15	7	2	G	高校・一般男子3km	51	39	11	H	高校・一般女子3km	32	22	2	I	高校・一般男子5km	97	81	2	J	高校・一般女子5km	19	15	2	K	高校・一般男子10km	251	199	11	L	高校・一般女子10km	35	27	0	M	誰でも参加（計測なし）3km	97	86	30	計		854	690	170
	コース		申込者（名）	参加者（名）	うち町民（名）																																																																										
	A	小学校3年生以下男子3km	51	48	24																																																																										
	B	小学校3年生以下女子3km	32	29	18																																																																										
	C	小学校4～6年生男子3km	80	63	32																																																																										
	D	小学校4～6年生女子3km	66	58	29																																																																										
E	中学生男子3km	28	16	7																																																																											
F	中学生女子3km	15	7	2																																																																											
G	高校・一般男子3km	51	39	11																																																																											
H	高校・一般女子3km	32	22	2																																																																											
I	高校・一般男子5km	97	81	2																																																																											
J	高校・一般女子5km	19	15	2																																																																											
K	高校・一般男子10km	251	199	11																																																																											
L	高校・一般女子10km	35	27	0																																																																											
M	誰でも参加（計測なし）3km	97	86	30																																																																											
計		854	690	170																																																																											
成果	三八地域のみならず県内の市町村から多くの参加があり、当町のPRになるとともに、町民と他市町村選手の交流、陸上競技振興の一助となった。																																																																														
評価と方向性	町内外から多くのマラソンランナーが参加する社会体育事業唯一のマラソン大会であり、今後も安全面に配慮し継続していく。 なお、企業2社（ユニバース、サントリーフーズ）からスポーツドリンクの協賛を得るなど、今後も大会運営に工夫を凝らしていきたいと考えている。																																																																														

より安全・安心のおいしい給食を目指します。		事業の評価	○
		総合評価	B
概要	食中毒防止に重点を置いた衛生管理を行う。		
実績	1 調理従事者の健康管理の徹底および調理前や作業が変わるごとの手洗いを徹底して、食中毒防止に重点をおいた衛生管理を行い、調理作業を行った。 2 平成24年10月より毎月1回、南部町産の野菜の放射性物質測定検査を継続し、安全が確認された食材を使用した給食を提供した。 3 給食センター見学を実施し、給食センター内が汚染区域清潔区域に分けられていたり、作業従事者の服装も区域ごとに分けられている様子を見学させることにより、厳重な衛生管理の下に給食が提供されていることを周知した。		
成果	食中毒を防止した給食の提供ができた。		
評価と方向性	安全な食材の選定・使用および食中毒防止に重点をおいた作業工程を計画することにより、安心して喫食できる給食の提供を目指すとともに、児童生徒に喜ばれるおいしい給食を目指す。		

給食センター関係 No.5 3

栄養バランスのとれた食事内容の充実をはかります。		事業の評価	○
		総合評価	B
概要	児童生徒の健康の増進・体位の向上を図るため、多種多様な食品を活用しながら学校給食摂取基準に基づいた献立を作成する。		
実績	1 南部町独自の推定エネルギー必要量を算出して運用し、南部町児童生徒の体格に見合ったエネルギー量の給食を提供するとともに、児童生徒への食育指導を行った。		
	給食センター見学への対応	町内小学校：7回	
	食育授業による栄養指導	町内小学校11校：45回	
	健康面談	実施なし	
	就学時児童への給食説明及び試食会	実施なし	
	バイキング式給食	町内小中学校11校11回	
	調理従事者研修会・講習会	県内開催1回、郡内開催2回	
	栄養士の共同購入選定会議	郡内開催年6回	
	栄養士の研修会・講習会	県内開催年9回	
成果	成長期において、栄養バランスのよい食事の摂取や、規則正しい生活リズムの確立は、一生の健康を左右する。児童生徒に対し、給食を生きた教材として活用しながら食育指導を行ったことで、「1日3食バランスよく食べること」の「大切さ」と「方法」を理解させた。		
評価と方向性	食育授業を3年間継続して行ったことで、児童生徒自らが、一生健康で長生き出来るよう、自己管理をしようとする意欲を持たせることが出来た。今後も児童生徒の興味・関心のある内容を取り挙げ、各学校や地域と連携して指導を継続していく。		

手作りの給食を心がけます。		事業の評価	○
		総合評価	B
概要	みそ汁のだしをとったり、料理の色合いや食材の切り方などに工夫を凝らし、手作り感のある給食にする。		
実績	みそ汁を提供する際は、天然だしパックを活用してだしをとるとともに、作業時間に余裕のある時には、食材を手切りにして、手作り感を出した。また、さくらんぼ、みかん、りんごなどの生の果物や、バイキング給食提供時に使用する生野菜(レタス、ミニトマト等)を次亜塩素酸ナトリウムを使用せずに消毒することができる「微酸性電解水生成装置」を活用し、給食の提供を行った。		
成果	みそ汁のだしをきかせたり、食数の少ない時は、家庭の料理と同じように機械を使わず手切りをし、手間をかけることで、手作り感のある給食が提供できた。		
評価と方向性	手作りの給食を心がけ、給食レシピも給食だよりで紹介することで、給食が家庭での食事の参考となるようにしていく。また、だしをとることで、うまみだけでなく、塩分を抑える効果もあることを学ばせる。今後、提供する給食の色合いにも一層の工夫をする。		

伝統食、郷土食を取り入れ、季節感を大切にします。		事業の評価	○
		総合評価	B
概要	地域への関心を深めると共に、気候風土に応じた産物の生産・流通・消費について、また、歴史を理解させることを目的として、伝統食、郷土食を取り入れる。		
実績	伝統食は、冬場向きの料理が多いことから、提供する際は、季節を考慮した。 7月にはさくらんぼ、秋から冬にかけてはりんごを提供した。		
	伝統食	青森県内：せんべい汁・たら汁・すき昆布煮・ひつつみ、馬肉汁 その他の地域：石狩汁・筑前煮	
	町郷土食材	さくらんぼ・りんご	
成果	「給食一口メモ」を作成し受配校において給食時間に活用して頂いているが、伝統食、郷土食を提供する日は料理の由来などを紹介することで、伝統食、郷土食を伝承することに貢献できた。		
評価と方向性	伝統食や郷土食は、近年家庭であまり出されない傾向にあることから、給食では「食の伝承」を目的に積極的に取り入れていく。また、青森県をはじめ、日本各地の伝統食・郷土食も取り入れながら、南部町産野菜・米を使用することによって作られる和食の良さを伝えていく。		

地元の産物を活用しながら、地域との連携を大切にします。		事業の評価	○
		総合評価	B
概要	郷土の気候風土がもたらす恵みと地元生産者への理解と感謝の気持ちを持てるよう、地元の産物を活用した給食を提供する。		
実績	1 毎月配布している「給食だより」に給食に活用する南部町産食材を掲載し、南部町ではどのような作物が生産されているか等を児童生徒に学ばせるとともに、保護者へ地元産食材活用の周知を図った。 2 給食で南部町産をはじめとする地元産食材を多く活用することで、地元生産者への理解と感謝の気持ちを持てるよう、また、地元産物を実際に食することで、郷土に対して誇りを持てるよう学ばせた。 〈食材の活用率〉 ・米穀は南部町(福地)産「つがるロマン」 100.00% ・南部町産の食材 20.32% ・青森県産の食材 53.14% ・国内産の食材 24.32% ・その他(輸入品等)の食材 2.22%		
成果	南部町産をはじめとする地元産食材を多く活用した給食を提供することで、生きた教材となった。		
評価と方向性	輸入品等の食材活用率を減らすことができた。今後、地元農家の方々や地域の方々と交流・連携して、より多くの地元産物の活用に努める。		

教育委員会活動の状況

1 教育委員会委員構成

職 名	氏 名	任 期 期 間
教 育 長	高 橋 力 也	平成31年4月1日～令和4年3月31日
委 員 (教育長職務代理者)	境 久 孝	平成30年4月5日～令和4年4月4日 (平成31年4月5日～令和2年4月4日)
委 員	佐 藤 俊 男	平成30年4月5日～令和2年4月4日
委 員	西 舘 た か	平成31年3月16日～令和5年3月15日
委 員	山 田 和 彦	平成29年3月16日～令和3年3月15日

＊ 括弧は教育長職務代理者任期

2 教育委員会の活動概要

(1) 学校訪問

学校等の教育関連施設を訪問して教育現場の状況を把握する

小学校 4校、中学校 2校の学校訪問を実施

訪 問 月 日	訪 問 校
平成30年9月21日	名久井小学校、杉沢中学校
平成30年10月18日	杉沢小学校、南部小学校
平成30年11月20日	福地小学校、南部中学校

(2) 会議・研修会

＊ 研修会等に参加し、委員としての幅広い見識(識見)を養う

開催月日	会 議 ・ 研 修 会 明	出 張 先	出席者数
5月25日	青森県町村教育委員会連絡協議会研修会	青森市	5人
7月5日～6日	三戸郡教育振興会町村教育委員研修会	山形県川西町	3人
10月17日	三戸郡教育振興会町村教育委員秋季研修会	田子町	5人
2月18日	三戸郡教育振興会定期総会	南部町	4人

(3)各種行事・大会等

* その他、下記の各種行事・大会に参加

開催月日	行事・大会名	開催月日	行事・大会名
4月9日	剣吉小学校入学式	10月2日	国際音楽の日 音楽会
4月9日	名久井小学校入学式	10月6日	福地中学校合唱コンクール
4月9日	名川南小学校入学式	10月13日	福地小学校学習発表会
4月9日	南部小学校入学式	10月13日	杉沢小・中学校合同文化祭
4月9日	向小学校入学式	10月13日	名川中学校合唱コンクール
4月9日	福田小学校入学式	10月14日	名川中学校文化祭
4月9日	杉沢小学校入学式	10月14日	南部中学校文化祭
4月9日	福地小学校入学式	10月14日	福地中学校文化祭
4月9日	名川中学校入学式	10月20日	剣吉小学校学習発表会
4月9日	南部中学校入学式	10月20日	南部小学校学芸会
4月9日	福地中学校入学式	10月20日	向小学校学習発表会
4月9日	杉沢中学校入学式	10月20日	福田小学校学習発表会
4月22日	うぐいすマラソン大会	10月21日	名川南小学校学習発表会
4月26日	南部町教育大会	11月25日	南部小学校創立20周年記念式典
5月13日	福地中学校体育祭	11月30日	南部町中学生海外派遣研修報告会
5月13日	南部中学校体育祭	12月1日	名久井小学校学習発表会
5月19日	剣吉小学校運動会	12月16日	南部学研究会
5月19日	南部小学校運動会	1月13日	南部町成人式
5月20日	向小学校運動会	2月2日	南部町文化賞・スポーツ賞授与式
5月20日	福田小学校運動会	2月9日	南部地方えんぶり
5月20日	名川中学校体育祭	3月12日	名川中学校卒業証書授与式
5月21日	杉沢小・中学区民運動会	3月13日	南部中学校卒業証書授与式
5月21日	福地小学校運動会	3月13日	福地中学校卒業証書授与式
5月21日	名久井小学校運動会	3月13日	杉沢中学校卒業証書授与式
5月27日	名川南小学校運動会	3月20日	剣吉小学校卒業証書授与式
6月15日	南部町小学校陸上競技記録会	3月20日	名久井小学校卒業証書授与式
6月16日	三戸郡中学校体育大会開会式	3月20日	名川南小学校卒業証書授与式
8月2日	南部町小学校水泳記録会	3月20日	南部小学校卒業証書授与式
8月5日	北奥羽少年剣道大会	3月20日	向小学校卒業証書授与式
9月23日	南部七唄七踊り全国大会	3月20日	福田小学校卒業証書授与式
		3月20日	杉沢小学校卒業証書授与式
		3月20日	福地小学校卒業証書授与式

3 教育委員会会議

月 1 回開催の定例会

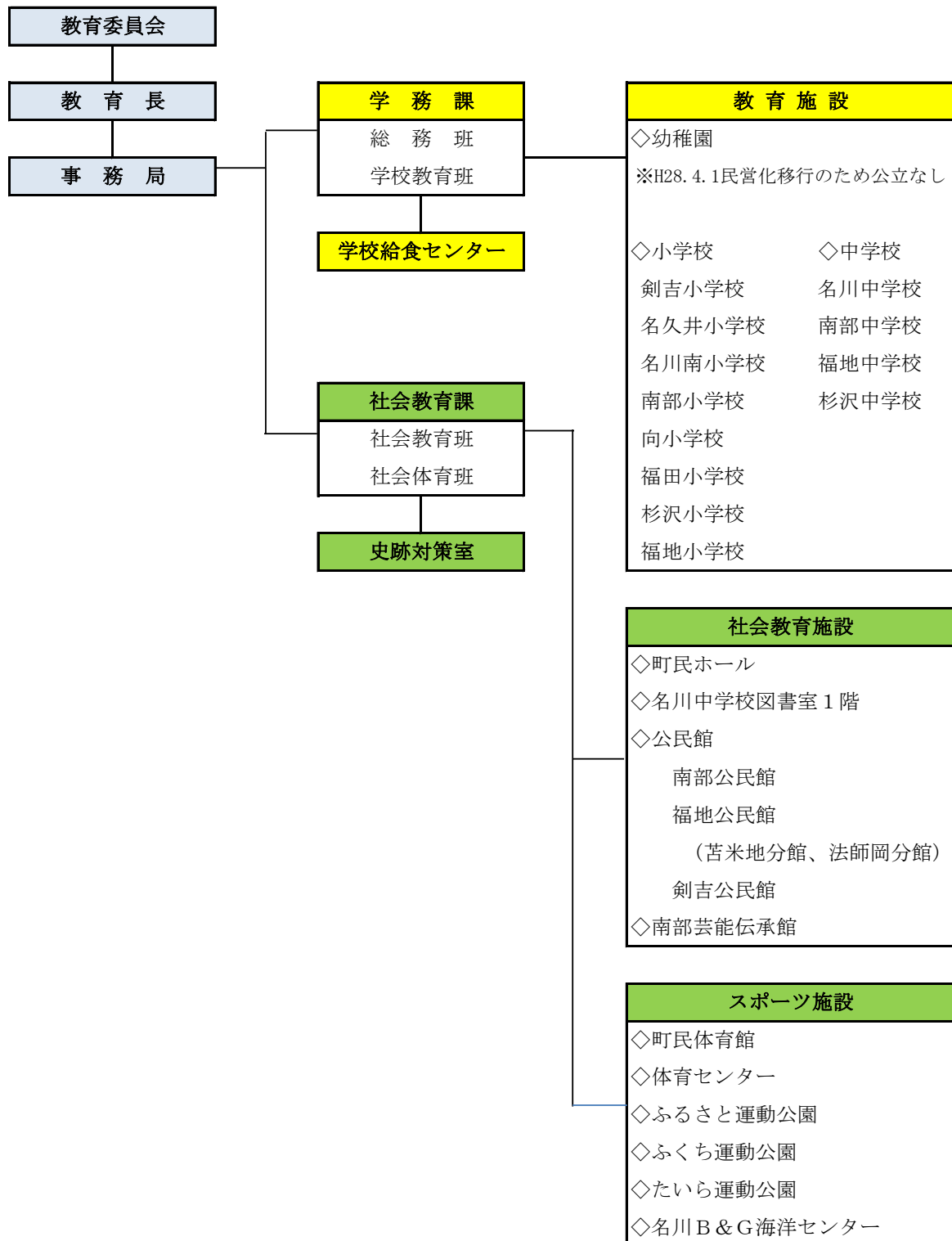
開催日	会議	議案番号等	案 件
平成 30 年 4 月 18 日	第 155 回	報告第 1 号 報告第 2 号 報告第 3 号 報告第 4 号 報告第 5 号 報告第 6 号 報告第 7 号 議案第 1 号	平成 30 年度要保護・準要保護児童生徒の認定について 平成 30 年度通学区域外就学の承認について 平成 30 年度区域外就学の承諾について 南部町教育委員会事務局職員の人事異動について 南部町スクールサポーターの委嘱について 南部町学校医・学校薬剤師の委嘱について 南部町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例施行規則の一部改正について 南部町スポーツ推進委員の委嘱について
平成 30 年 5 月 15 日	第 156 回	報告第 8 号 報告第 9 号 議案第 2 号 議案第 3 号 議案第 4 号	平成 30 年度要保護・準要保護児童生徒の認定について 南部町教育支援委員会委員の委嘱について 南部町社会教育委員の委嘱について 南部町公民館運営審議会委員の委嘱について 南部町文化財審議委員の委嘱について
平成 30 年 6 月 22 日	第 157 回	報告第 10 号 報告第 11 号 報告第 12 号 報告第 13 号 報告第 14 号 報告第 15 号 議案第 5 号 議案第 6 号	平成 30 年度要保護・準要保護児童生徒の認定について 平成 30 年度通学区域外就学の承諾及び解除について 南部町教育支援委員会委員の委嘱について 教育財産（コンピューター機器）の取得について 教育財産（土地）の取得について 平成 30 年度南部町一般会計補正予算（教育費関係）について 南部町奨学金の貸付について 教育財産（土地）の取得の申出について
平成 30 年 7 月 20 日	第 158 回	報告第 16 号 報告第 17 号 報告第 18 号 報告第 19 号 報告第 20 号 議案第 7 号	平成 30 年度特別支援教育就学奨励費支弁区分の認定について 平成 30 年度区域外就学の承諾について 南部町立福田小学校学校評議員の委嘱について 教育財産の用途変更について（学務課関係） 教育財産の用途変更について（社会教育課関係） 南部町スポーツ指導員の委嘱について
平成 30 年 8 月 21 日	第 159 回	報告第 21 号	平成 30 年度要保護・準要保護児童生徒の認定について
平成 30 年 9 月 21 日	第 160 回	報告第 22 号 報告第 23 号 報告第 24 号 報告第 25 号 報告第 26 号 議案第 8 号	平成 29 年度南部町一般会計歳入歳出決算認定について 平成 29 年度南部町学校給食センター特別会計歳入歳出決算認定について 平成 30 年度南部町一般会計補正予算（教育費関係）について 平成 30 年度南部町学校給食センター特別会計補正予算について 南部町立福地中学校学校評議員の委嘱について 南部町幼稚園型一時預かり事業補助金交付要綱の一部改正について
平成 30 年 10 月 18 日	第 161 回	報告第 27 号 議案第 9 号	平成 30 年度要保護・準要保護児童生徒の認定について 南部町文化賞・スポーツ賞表彰審査会委員の委嘱について

平成 30 年 11 月 20 日	第 162 回	議案第 10 号	平成 30 年度南部町教育委員会の事務の点検及び評価報告書【平成 29 年度実績】について
-------------------	---------	----------	---

開催日	会議	議案番号等	案 件
平成 30 年 12 月 21 日	第 163 回	報告第 28 号 議案第 11 号 議案第 12 号	平成 30 年度南部町一般会計補正予算（教育費関係）について 南部町立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について 南部町立小学校及び中学校の職員の服務等に関する規程の一部を改正する訓令の制定について
平成 31 年 1 月 16 日	第 164 回	報告第 29 号 議案第 13 号 議案第 14 号	平成 30 年度要保護・準要保護児童生徒の認定及び解除について 平成 30 年南部町文化賞・南部町スポーツ賞被表彰者について 町文化財の指定解除について
平成 31 年 2 月 15 日	第 165 回	報告第 30 号 報告第 31 号 報告第 32 号 議案第 15 号 議案第 16 号 議案第 17 号	平成 30 年度要保護・準要保護児童生徒の認定について 平成 31 年度通学区域外就学の承諾について 平成 31 年度区域外就学の承諾について 平成 31 年度南部町教育方針について 南部町世代間交流施設ログハウス条例の一部を改正する条例の制定について 南部町奨学金貸付条例の一部を改正する条例の制定について
平成 31 年 3 月 20 日	第 166 回	報告第 33 号 報告第 34 号 報告第 35 号 報告第 36 号 報告第 37 号 報告第 38 号 報告第 39 号 報告第 40 号 議案第 18 号 議案第 19 号 議案第 20 号	平成 30 年度南部町一般会計補正予算（教育費関係）について 平成 30 年度要保護・準要保護児童生徒の認定及び解除について 平成 31 年度要保護・準要保護児童生徒の認定について 平成 31 年度通学区域外就学の承諾について 平成 31 年度区域外就学の承諾について 平成 31 年度南部町一般会計当初予算（教育費関係）について 平成 31 年度南部町学校給食センター特別会計当初予算について 専決処分した事項の報告について 平成 31 年度南部町教育大会について 県費負担教職員の人事異動について 南部町文化財の指定について

教育委員会事務局の組織の状況

1 教育委員会機構図



2 教育委員会事務分掌

● 学 務 課

【総 務 班】

教育委員会の会議に関すること。
教育委員会及び学校その他の教育機関の職員の任免その他人事に関すること。
公印の保管に関すること。
文書の收受、発送、管理、保存及び廃棄に関すること。
教育予算の編成及び執行に関すること。
県費負担職員の任免その他人事に関すること。
学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関すること。
教育財産の管理に関すること。
教育委員会規則等の制定又は改廃に関すること。
基幹統計及び教育に係る調査その他の統計に関すること。
県教育委員会その他の関係機関との連絡調整に関すること。
他の班の所掌に属しない事務に関すること。

【学校教育班】

校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること。
学校施設台帳の整備保管に関すること。
教育内容及びその取扱いに関すること。
教科用図書の採択並びに給与に関すること。
学習効果の評価に関すること。
校長及び教員その他教育関係職員の研修に関すること。
校長及び教員その他教育関係職員並びに児童、生徒の安全厚生及び福利に関すること。
学校給食に関すること。
児童及び生徒の就学に関すること。
学校保健に関すること。
学校図書館に関すること。
義務教育費国庫負担事務に関すること。
学校の産業教育、理科教育及びへき地教育の振興に関すること。
幼稚園に関すること。
児童及び生徒の交流に関すること。
奨学金に関すること。
その他学校教育に関すること。

●社会教育課

【社会教育班】

公民館その他社会教育機関の設置、管理及び廃止に関すること。
社会教育委員、公民館運営審議会及び文化財審議委員に関すること。
各種教室及び学級その他社会教育講座に関すること。
社会教育関係団体の指導育成に関すること。
社会教育資料の刊行及び配布並びに情報の交換、調査研究に関すること。
文化財の保護に関すること。
郷土芸能の伝承に関すること。
社会教育のために必要な設備、機材及び資料の提供に関すること。
ユネスコ活動に関すること。
コミュニティーに関すること。
ボランティアに関すること。
青少年教育に関すること。
青少年健全育成に関すること。
家庭教育に関すること。
婦人教育に関すること。
男女共同参画事業に関すること。
生涯学習推進事業に関すること。
文書の收受、発送、管理、保存及び廃棄に関すること。
その他社会教育に関すること。

【社会体育班】

体育・スポーツの振興に関すること。
スポーツ推進委員に関すること。
体育関係団体の指導育成に関すること。
体育施設の管理運営及び整備に関すること。
運動公園の管理運営及び整備に関すること。
町民運動会に関すること。
スポーツ教室及びスポーツ大会に関すること。
その他社会体育に関すること。

【史跡対策室】

南部氏関連城館整備検討委員会に関すること。
南部氏史跡整備検討委員会に関すること。
国指定史跡「聖寿寺館跡」保存管理に関すること。
南部氏史跡の公有化に関すること。

南部氏史跡発掘調査に関すること。
南部氏史跡整備基本構想策定に関すること。
南部氏史跡整備及び活用に関すること。
南部氏史跡の周知に関すること。
南部氏の文献調査及び研究に関すること。
南部氏史跡対策室の経理事務に関すること。

3 教育関係予算の状況(決算)

(単位:千円)

款	項	目	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
教育費	教 育 総務費	教育委員会費	862	1,049	828	944	800	839
		事務局費	151,533	160,065	146,402	211,748	186,941	189,184
		小計	152,395	161,114	147,230	212,692	187,741	190,023
	小学校費	学校管理費	97,366	82,497	250,356	270,371	92,609	137,670
		教育振興費	19,864	19,534	15,060	14,578	14,369	14,631
		小計	117,230	102,031	265,416	284,949	106,978	152,301
	中学校費	学校管理費	70,772	54,654	58,725	54,058	260,813	56,223
		教育振興費	17,710	18,496	12,929	14,329	13,039	12,749
		小計	88,482	73,150	71,654	68,387	273,852	68,972
	幼稚園費	幼稚園管理費	32,516	17,860	20,366	314	0	0
		教育振興費	5,647	6,515	41,780	71,157	81,029	90,210
		小計	38,163	24,375	62,146	71,471	81,029	90,210
	社会教育費	社会教育総務費	67,398	67,981	56,807	64,415	52,755	52,824
		公民館費	43,285	42,810	58,286	26,350	25,625	42,135
		社会教育施設費	12,601	12,481	12,659	12,781	21,461	18,641
		文化財保護費	32,660	47,933	28,379	119,689	76,512	118,978
		小計	155,944	171,205	156,131	223,235	176,353	232,579
	保健体育費	保健体育総務費	49,287	53,636	52,086	47,230	44,566	47,360
		保健体育施設費	51,925	39,842	66,653	48,883	52,836	50,116
		保健体育施設整備費	—	—	—	—	—	—
		小計	101,212	93,478	118,739	96,113	97,402	97,476
	給食センター費	給食センター費	94,609	141,737	95,062	96,097	96,501	92,036
		小計	94,609	141,737	95,062	96,097	96,501	92,036
	合 計			775,260	748,035	767,090	1,052,944	1,019,856
対 前 年 比			1.03	0.96	1.03	1.37	0.96	0.88

特色ある学校経営事業の経過概要及び効果

南部町立剣吉小学校

校長 坂 本 晴 美

活 動 名 称 (テーマ)	児童の学習効果を上げるための学習環境整備
現 状	名久井農業高校や長坂下環境保全隊の協力を得て、農業体験活動に取り組んでいる。また、授業における指導方法の改善に努め、児童の興味や関心を高め、学力向上に取り組んでいる。 さらに、効果を上げるよう継続して取り組む必要がある。
目 標	・ 地域や人々との触れ合いを深め、学んだことや考えたことを情報発信できる力の育成 ・ 学習内容を理解し、学んだ知識を活用する力の向上 ・ 健やかな心と体で生活する児童の育成
実施年月日	実 施 内 容
5月～11月	1 総合的な学習の時間におけるふるさと「南部町」のよさ発見学習 ○長坂下環境保全隊の方々との農業体験学習、収穫感謝祭などを通じた情報発信 ○修学旅行を通しての「南部町」PR活動
通年	2 分かる授業の展開とともに、活用型の授業改善を意識しながら、児童の学習意欲を高め学力の向上を図る授業実践 ○個に応じ、きめ細やかに、学習内容の定着を図る活動 (児童一人一人の学力の向上) ○ICT(PCソフトやデジタルカメラ)を効果的に利用した活用型の授業実践や振り返り
8月	3 前向きに生活する態度育成のための健やかな体づくり ○サッカーポート(キックターゲット)の設置による日常的・継続的な体力向上
取組による成果	・ 子どもたちの学習意欲が高まり、学力向上に結びついた。 ・ 地域とのつながりが深まった。 ・ 体験的な学習活動から、地域の持つよさに気づかせることができた。
今後の課題と取組方針	まだ、「自信がない、発表することが恥ずかしい」という児童もいる。今後も、自己肯定感を高め、主体的に学びに取り組む児童を育成するため、来年度も継続を希望する。

特色ある学校経営事業の経過概要及び効果

南部町立名久井小学校
校長 池田 真理子

活動名称 (テーマ)	自ら学び、自ら考え、主体的・協同的に取り組む能力と態度の育成
現 状	※各学校の教育現状及び課題について記載すること。 1 自分が住んでいる「南部町」について詳しく知っていることが少なく、ふるさとへの愛着や誇りなどが十分とはいえない。 2 自分たちが使っているエネルギーはどのように作られ、使えなくなるとどうなるのかなどの認識はあまりない。
目 標	※児童生徒に身につけさせたい資質・能力等について記載すること。 1 南部町の主力産業である農業についてふれさせ、実際に栽培する体験や、地域の素材を生かした郷土料理などを知ることによってふるさと南部町の良さを実感する。特産品等の理解を深める。 2 エネルギー環境教育を通して環境に対する意識を高揚させ、環境保全の大切さを理解し、できることを実践する力を身に付ける。
実施年月日	実 施 内 容
5月～12月	1 ふるさと学習 ①農園活動：野菜を育てよう（各学年ごとに畑で栽培） ②目指せ食キング(3年)郷土料理について知る ③如来堂川のなぞを探る(4年) ④相撲大会を成功させよう(全校) ⑤南部手踊りを発表しよう(手踊りクラブ)学習発表会 ⑥リンゴ栽培体験(5年)授粉、摘果、袋掛け、収穫 ⑦聖寿寺館跡発掘体験、名久井岳登山(6年)→雨天中止 ⑧花を育てよう(全校) 花いっぱい運動 ぼたんの苗植え 2 エネルギー環境教育 ①環境教育授業（ゴミを減らす、環境にやさしい買い物を考える、地球温暖化を理解し省エネを実践。） ②ものづくり体験（廃油からろうそくをつくる、など） ③エネルギーデー（手作りカイロづくり、など）
7月～2月	○年間を通じて、ICTを活用し、視聴覚的な情報を共有しながら、学習内容を深めたり、自分の考えを発表したりした。学習のまとめとして異学年や地域の方を呼んで発表会等を実施した。
取組による成果	1 それぞれの学年のテーマでふるさと学習を進め、南部町の良さを改めて見つめ直すことができ、ふるさとへの愛着が深まった。米作り、ぼたんの栽培に今年度新たに取り組むことができた。 2 エネルギーデーを設け、何気なく使っているエネルギーを見つめ直し、自然環境を保全していく重要性の理解が深まった。
今後の課題と 取組方針	本校は総合的な学習の中で、たくさんの体験学習を組んでいるが、新指導要領でも取り上げられているように主体的・対話的な学習となるよう、思考力・判断力・表現力を育む学習活動の工夫を図っていく必要がある。

特色ある学校経営事業の経過概要及び効果

南部町立名川南小学校

校長 石 沢 正 彦

活 動 名 称 (テ ー マ)	地域の特性を生かした体験活動の推進
現 状	地域の自然を生かした体験学習を実施したり、経験豊富な地域人材の活用をしたりして特色ある学校経営をおこなっている。また、地域との交流は、学校行事を中心として積極的におこなっている。
目 標	地域の自然・文化を取り入れた学習を推進しながら、地域の人材を積極的に活用して、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育む。
実施年月日	実 施 内 容
5月下旬 10月 12月3日	【田植え】 ・鳥谷、鳥舌内両老人クラブの方々、及び保護者の方々に指導・支援していただきながら、全校児童がもち米の苗を植える。 【葉まき】 ・除草剤をまく。 【稲の観察】 ・全校児童で、稲の成長を確認し、記録する。 【稲刈り・脱穀】 ・鳥谷、鳥舌内両老人クラブの方々、及び保護者の方々に指導・支援していただきながら、全校児童で収穫する。 ・天日干しした米を、児童が足踏み脱穀機などを使い、昔の道具の学習もしながら、脱穀作業を行う。 【もちつき・蕎麦打ち会】 ・地域の方々、来賓の方々を招待し、収穫祭を行う。今年は、約90名の方々が集い、楽しく交流が行われた。
取組による成果	地域の自然・文化を取り入れた生活科や総合的な学習の時間等を推進するとともに、地域の人材を積極的に活用して、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育み、地域とともに歩む開かれた学校づくりを進めることができた。
今後の課題と取組方針	児童数の減少、地域の方の高齢化が進むにつれ、児童の活動が制限され、地域の方の参加も年々減ってきている。田植え・稲刈り、もちつき・そば打ち等の指導にあたっていたい老人クラブの人材確保も難しくなっている。 今後も継続した取組をおこなっていく。

特色ある学校経営事業の経過概要及び効果

南部町立南部小学校
校長 松 橋 淳 子

活 動 名 称 (テ ー マ)	豊かな心をはぐくむ体験活動や環境づくりの活動
現 状	・何事にも一生懸命で、与えられたことには熱心に取り組む子が多い。その一方で、少子化に伴い、友達同士や様々な人たちとの関わりが少なくなり、地域の方々等いろいろな人と交流し、学ぶことがより一層求められている。また、周りの環境を意識して生活することの大切さを学んでいくことが求められている。
目 標	・多くの自然、地域、人と関わる多様な活動を体験させ、豊かな心を育成する。また、1～6年生による縦割り班活動を充実させ、仲良く協力して活動する子、きれいな環境づくりに関心をもつ子を育成する。
実施年月日	実 施 内 容
5月 25日 5月～ 2月 5月～12月 4月～12月 通年 5月～12月 5月、 8月 通年 5月～12月 2月12日 5月～11月 通年	I 自然、地域、人と関わる多様な活動 (1) 自然体験活動の実施(縦割り班による野外炊事) (2) 農業体験活動の実施(教材園での栽培活動、1・2年サツマイモ収穫、焼き芋体験、3年南部太ネギ植え付け・収穫体験、5年田植え・稲刈り・脱穀・もちつき収穫祭) (3) 生活科・総合的な学習の時間の充実(1・2年けりごま体験、3・4年カヌー体験、如来堂川の水生生物調査、5年魚市場見学・八戸市中心街散策、6年聖寿寺跡発掘体験・奥州街道ウォーク) II 豊かな心やたくましい体を育てるための活動 (1) 「なんぶ読み聞かせの会」による活動(月1回) (2) 読書活動の推進(本のイラストコンクール、推薦図書の紹介コーナー) (3) 異学年交流活動の充実(年2回クリーン作戦、縦割り班集会) (4) 「よさこいソーラン」と「よっちょれ」の伝承(運動会、なんぶ祭り) (5) 体力づくりの強化(マラソン・なわとびによる体力づくり、校内マラソン記録会、校内なわとび記録会) (6) 食育の推進(1・2年給食センター見学、全学年食育指導、全校セレクト給食) III 郷土に伝わる伝統芸能に触れる活動 (郷土芸能鑑賞会・・・相内神楽保存会) IV 環境美化活動 (花いっぱい運動・・・花壇整備、人権の花植え) V キャリア教育の推進(キャリアノートの活用と保護者との連携)
取組による成果	・自然に触れる体験活動や様々な分野の専門家の方との触れ合い、地区に伝わる郷土芸能の鑑賞などをおして、子どもたちが地域のよさや人との交流のすばらしさを知り、意欲的に学習した。また、様々な体験活動を通して、子どもたちが協力して取り組む姿が見られ、子ども同士の関係が深まった。
今後の課題と 取組方針	・様々な体験活動を教科と関連づけ、子どもたちの視野が広がるようにしていきたい。今後も地域との触れ合い活動を大切に、郷土を愛する子どもを育成していきたい。

特色ある学校経営事業の経過概要及び効果

南部町立向小学校
校長 芦名 均

活 動 名 称 (テ ー マ)	「無限の可能性いっぱい」の生き生き輝く向っ子
現 状	※各学校の教育現状及び課題について記載すること。 優しく素直な子どもたちが多い反面、自分を高めるためにより高い目標を立て、失敗を恐れず強い心でやり抜くところに課題がある。
目 標	※児童生徒に身につけさせたい資質・能力等について記載すること。 ・基礎・基本の定着と主体的に学ぶ力の向上 ・規範意識の向上と思いやりの心の育成 ・根気強く挑戦する心と生活リズムの確立
実施年月日	実 施 内 容
6 月 6 月 2 9 日 8 月 1 1 日 5 月～1 0 月 6 月 8 日 通年	1 郷土理解を深める活動 ・「ナニヤドヤラ愛好会」の方を講師に迎え、全校児童が踊りや太鼓、歌の練習に取り組んだ。 ・来賓や保護者、老人福祉施設に入居されている方を招き、練習の成果を発表する場としてナニヤドヤラコンクールを開催し踊りや太鼓、歌を披露することができた。 ・南部まつりのパレードに参加し、ナニヤドヤラを披露した。 2 飼育栽培活動の充実 ・生活科「野菜を育てよう」 ・理科「植物の養分と水・人や動物の体・生物のくらしと環境」 3 全校自然体験学習の実施 ・岩手県北青少年の家において、初めての炊事に取り組んだ。準備から計画、調理までを6年生を中心とした縦割り班で行い豚汁を完成させることができた。 4 教科体育の充実 ・ターゲットボードを使い、「投げる運動」の充実を図った。
取組による成果	ナニヤドヤラコンクールに向けての取り組みをとおして、地域の方との交流を深めた。また、そのことで地域を大切にし、伝統を受け継ごうという心を育むことができた。栽培活動や自然体験学習を通じて、生き物を大切にしようとする気持ちや友達と協力する大切さに気付くことができた。
今後の課題と 取組方針	今年度の事業を継続してく予定ではあるが、児童数の減少により全校的な活動がますます重要となってくることが予想される。児童にとって有意義な教育活動が展開できるよう、新たな事業へも積極的に取り組んでいきたい。

特色ある学校経営事業の経過概要及び効果

南部町立福田小学校

校長 三 戸 盛 司

活 動 名 称 (テ ー マ)	特色ある学校経営事業 (主体的に学習に取り組む児童の育成)
現 状	本校の学校課題の一つに、「主体的に学び合う（対話を通して）学習」がある。本校児童は、授業には積極的に取り組むものの「学び合う」「対話」という点では、まだ身に付いていない。そこで、児童に興味・関心をもたせる教材提示や対話を高めるための手立てを工夫するなど授業改善に取り組んでいるところである。
目 標	本校最重要課題の「主体的に学び合う（対話を通して）学習」に向けて、児童に興味・関心を持たせる教材、ＩＣＴ活用や実物を用いるなどの対話の手立て等を工夫することにより、課題解決を図る。
実施年月日	実 施 内 容
H31年2月8日 H31年2月7日 H30年4月～ H31年3月 H30年4月～ H31年2月	①八幡馬づくり ・3学年総合的な学習の時間に八幡馬制作に取り組ませた。 ②えんぶり「えぼし」づくり ・4学年総合的な学習の時間にえんぶりの「えぼし」制作に取り組ませた。 ③プロジェクター・プロジェクター台（ＩＣＴ活用） ・各教科において、授業改善や分かる授業の展開に活用した。 ・授業で活用する資料や実物、児童のノートをスクリーンに提示した。 ④文化箏・締太鼓 ・音楽の授業を中心に、「和の音に触れる」というテーマで活用した。
取組による成果	・八幡馬作りとえんぶりえぼし作りを通して、郷土の伝統工業や伝統行事についての興味関心を高めるとともに、制作等の体験を通して講師に積極的に聞いたり友達と教え合ったりすることができた。 ・授業で活用する資料や実物、児童のノートをスクリーンに提示することで、学習意欲の高揚を図ることができ、学習に主体的な姿勢が多々見られるようになり学習内容の定着の一助となった。 ・「和」を意識したり日本文化に興味をもったりしながら、お互いに自分の思いや考えを伝え合い認め合う姿が見られた。
今後の課題と 取組方針	・八幡馬づくりや烏帽子づくり体験と地域のえんぶり鑑賞会とを結びつけるなど、学習の広がりを図りたい。また、郷土についての歴史等を調べようとする意欲を喚起したい。 ・ＩＣＴの活用は、児童の学習意欲や主体性、学習内容の定着の向上に有効であるが、活用の仕方では効果には大きな違いがあることも分かった。今後も全職員で研修を通して活用の工夫と授業改善に取り組み、児童一人一人の学力向上をめざしていきたい。 ・地域のよさ、日本文化のよさを実感させるとともに、他の文化にも目を向けさせ、外国語活動や異文化を理解することの大切さにもつなげていきたい。

特色ある学校経営事業の経過概要及び効果

南部町立杉沢小学校

校長 竹 田 裕

活 動 名 称 (テ ー マ)	豊かな心を育てる教育活動
現 状	・ 向上心をもって、意欲的に素直に取り組むことができるが、やや主体性に欠ける部分が見られる。 ・ 少人数であること、育った環境が似ていることなどから、体験や興味の広がりが十分とは言えない。
目 標	・ 主体的に活動に取り組み、成就感や満足感を味わわせる。 ・ ボランティアや地域の方々とのふれ合いを通して、コミュニケーション能力や自分自身をふり返る力を高める。
実施年月日	実 施 内 容
平成30年度 通年 4月～12月 5月～11月 12月1日 10月～2月	(1) 読書活動の推進 ① 朝読書と推薦図書の奨励…学年別推薦図書の奨励、図書まつり(12月10日～14日)の実施、週末読書の勧め ② 読み聞かせボランティア(なんぶ読み聞かせの会)による読み聞かせ…火曜日の朝 8:00～8:10 12回実施 (2) 体験活動の推進 ① 学校農園での栽培活動の実施…全校児童が縦割り班毎にイモを栽培した。各学級で自分たちが育てたい作物に挑戦した。 ② 収穫した作物を使つての収穫祭の実施…12月1日(土)収穫祭を開き、『杉沢元気鍋』『蒸しパン』を自分たちで調理し、地域、保護者の方々にふるまった。 ③ 収穫祭での地域・保護者の方々とふれあい…地域の方々と一緒に昔遊びをして楽しんだ。 (3) 伝承活動の実施 地域芸能(えんぶり)伝承活動の実施…地域の方々にご指導をいただきながら、全校児童が役割を担って取り組んだ。文化・学習発表会(10/13)校内発表会(1/24)長老園訪問(1/31)福地地区芸能文化祭(2/3)で発表した。
取組による成果	・ 読書活動を通して、本に親しむことができた。 ・ さまざまな方とのふれあいを通して、自信をもったり、感謝の気持ちに気づいたりすることができた。 ・ 収穫祭の企画・運営を通して意欲や成就感をもつことができた。 ・ ICTの環境を整備し、児童が主体的に発表することができた。
今後の課題と取組方針	・ 活動を継続することにより、児童自身が工夫や気づきをもつことができてきた。それを生かすように柔軟な姿勢で、計画・実践していく。

特色ある学校経営事業の経過概要及び効果

南部町立福地小学校

校長 松 橋 隆 夫

活 動 名 称 (テ ー マ)	共に学び、かかわり合いながら、豊かな心と夢をはぐくむ福地っ子プラン
現 状	本校は特色ある教育活動として、縦割り班による活動や人権教育、米作り・茶道教室など、地域や外部機関との連携による活動、青少年赤十字活動に伴う奉仕活動などを行い、教育目標である「笑顔いっぱい やる気いっぱい 元気いっぱい かがやく福地の子」を目指して取り組んでいる。多くの人と関わりながら、多様な体験を通じて豊かな心と夢を育んでいきたい。
目 標	教育活動全体を通して児童を以下のとおり育てたいと考えている。 ・自分や他人を大切にし、仲良く助け合う子（徳） ・進んで学習し、学び合う子（知） ・運動に親しみ、心と体をきたえる子（体） 本事業では特に、徳育の面を育てていきたい。
実施年月日	実 施 内 容
4 月～ 9 月	1 特色ある教育活動 (1)「少年消防クラブ」活動の推進 ・春の防火パレード参加・消防クラブリーダー研修会(合宿)参加 ・南部町防火大会にて軽可搬ポンプ操法を披露
6 月～11 月	(2) 縦割り班による集会活動の充実 ・児童集会（オリジナルゲーム縦割り班対抗戦）
通年	(3)人権教育の推進 ・人権集会（ふわふわ言葉とちくちく言葉）・校長講話
2 月 9 日	(4)地域の伝統芸能の鑑賞 ・えんぶり鑑賞会の実施（片岸えんぶり組）
通年	(5)青少年赤十字活動に伴う奉仕活動の推進 ・自主的清掃 ・草取り ・植物への水やり・クリーン作戦
4 月～12 月	2 生活科と総合的な学習の時間「わくわくタイム」での体験活動
5 月上旬～9 月	(1)「米作り・販売体験」(5 年)・田植え、稲刈り、脱穀、販売体験
5 月～11 月	(2)「野菜作り名人になろう」(全学年) 地域の方の指導と栽培体験
10 月26 日	(3)日本文化体験「茶道に親しもう」(全学年) 茶道体験
2 月 5 日	(4)「盲導犬体験学習」(4 年) 盲導犬との散歩体験
2 月 6 日	(5)「シルバークラブとの交流」(1 年)縄ないと昔の遊びの体験 (6)「昔の道具学習会」(3 年) えんつこ、炭こたつ等を体験
取組による成果	・地域の人々との交流を通して、地域の人々の温かさ、地域の歴史や昔の人々のくらしを知ることができた。 ・地域の伝統芸能や文化、人々とのかかわりを大切にしようする心や感謝の心を育むことができた。 ・それぞれの学年が様々な体験をしたことで、充実した総合的な学習の時間（わくわくタイム）にすることができた。
今後の課題と取組方針	・今年度の反省を踏まえ、活動や体験の仕方、交流する人や時期や場所、体験の仕方や活動の具体的な内容等を工夫し、今後も日本の伝統文化、地域の文化、地域の人々との交流、大切に活動をしていきたい。

特色ある学校経営事業の経過概要及び効果

南部町立名川中学校

校長 小林 孝 史

活 動 名 称 (テ ー マ)	耕 頭 ～地域と共に学ぶ～	
現 状	本校は創立以来、地域の人材を生かして伝統芸能についての学習や保存・継承活動について力を入れてきた。その活動のよさを、体験を通して学ぶことで郷土を愛する心を育てる機会としたい。また、いじめや自殺などの社会的な問題をふまえ、命の大切さについて専門家から学ぶことや体験を通して考えさせる必要がある。	
目 標	・ 郷土を愛し、郷土のよさを発信し自己の生き方について考える。 ・ 自他の生命の尊さを考え、生命を支えるものへの感謝の気持ちや持続可能な社会をつくる大切さについて体験を通して主体的に学ぶ。	
実施年月日		実 施 内 容
1 性に関する学習 ① 30年10月26日 2 主体的な学習活動 ①、② 30年5月～8月 ③ 30年9月～10月 3 郷土理解学習 (1) 7～10月 ① 30年10月14日 ② 31年 2月 9日 ③ 31年 2月17日		1 性に関する学習 (1) 性教育に関する講座(報償費：講師謝礼) ① 命の大切さ出前講座(1年) 2 主体的な学習活動の推進 (1) 生物育成体験学習(需用費：培養土等物品一式) ① 果菜作物の栽培 ② 観賞植物の栽培 (2) 学習のまとめ、発表活動(需用費：大判ロール紙、インク) ③ 文化祭やメディアスペースでの展示 3 郷土理解学習(備品購入費：えんぶり衣裳) (1) 伝統芸能(えんぶり)の体験学習(1、2学年) ① 文化祭での発表 ② 南部地方えんぶりでの発表 ③ 八戸えんぶりでの発表
取組による成果	郷土理解学習を通して、地域の伝統を受け継ぐことの大切さ、郷土を愛する心が育成された。また、性に関する学習と生物育成体験学習を通して、自他の生命の尊さを知り、生命を支える物への感謝の気持ちが育ち、持続可能な社会を主体的につくることの大切さを実感できた。	
今後の課題と取組方針	郷土理解学習は昨年度の課題であったカリキュラムや役割が改善されたが、引き続き取り組んでいく必要がある。演目の衣裳については、まだ講師の先生方から借りているものがあるため、今後も複数年をかけて計画的に引き続き購入していく必要がある。	

特色ある学校経営事業の経過概要及び効果

南部町立南部中学校
校長 田 中 康 文

活 動 名 称 (テ ー マ)	南中愛～煌～
現 状	本校では素直でおとなしい生徒が多い。反面、自己主張や人前に立っての活動が苦手な生徒もみられる。これは、生徒数の減少によって全学年が1学級になり人間関係が固定化されることに起因しているものと考えられる。本事業を活用し、行事や体験活動を通して豊かな人間性を育成していきたいと考える。
目 標	体育祭・文化祭・合唱コンクール・立志式等を中心に生徒の自主的な取組による行事を推進するとともに、JRC活動、農業体験学習などで地域の教育素材を活用した豊かな体験活動を展開することによって、社会性や道徳性が身についた心身ともに健全でたくましい生徒を育成する。
実施年月日	実 施 内 容
9月28日 11月 9日 5月13日 10月14日 1月25日 3月 9日 通年 通年	1 学習支援 ・1学年農業体験学習（リンゴ栽培・収穫）への支援 ・「いのちの大切さ」出前講座にともなう講演会等への支援 2 行事支援 ・体育祭におけるマスコットの製作等に係る消耗品代への支援 ・文化祭ステージ発表等に係る制作材料代等 ・立志式における講演会への支援 ・全校道徳（相内神楽実演）への支援 3. その他 ・校内装飾環境、校内環境美化への支援 ・掲示物を作成するための印刷機インク・トナーの購入
取組による成果	・1年農業体験学習を通して望ましい勤労観を育み、将来の職業や生き方について考えを深めることができた。 ・行事ではすべての生徒に役割を持たせることで、主体性・責任感・協調性などの向上に資することができた。 ・南中愛のテーマのもと行事や生徒会活動等の充実を図り、一人一役の活動を通して、認め励まし合い切磋琢磨する気風を醸成することができた。
今後の課題と取組方針	生徒数減少に伴い、行事の精選を行う必要がある。今年度は全学年が1学級となるため合唱コンクールを廃止し、合唱祭として時期を変更して実施した。保護者からはコンクール形式がよかったなどの意見が上がったが、行事のねらいを明確にし、その実現に向けて工夫改善に取り組みたい。また、地域の教材・教育力を活用し、特色ある学校経営を一層推進したいと考える。

特色ある学校経営事業の経過概要及び効果

南部町立福地中学校

校長 福井 淳 悦

活 動 名 称 (テ ー マ)	「自ら学び、自ら育つ生徒」「規律正しく、心豊かな生徒」 を育む活動推進事業
現 状	生徒は与えられた課題に一生懸命取り組んでおり、授業へも積極的に取り組んでいる。課題として、計画的に学習に取り組むことと、自ら課題を見つけ、話し合うことがあげられる。生徒に学習の喜びや成就感を味わわせること、生徒が自分たちの課題を話し合う集団づくりの支援を行う。
目 標	地域の人材を活用し、地域の文化、自然環境にふれさせながら、教育目標である「自ら学び、自ら育つ生徒」「規律正しく、心豊かな生徒」の育成に努め、学習活動や学校行事、体験活動の中で成果をあげる。
実施年月日	実 施 内 容
9月3～4日 5月 1日～13日 10月1日～14日 12月～1月31日 7月 3日 7月 19日 10月10日 11月12日 5月～10月	1 学習支援 ・ 職場体験学習（2学年）への支援 2 行事支援 ・ 体育祭各軍応援やマスコットづくりなどへの活動支援 ・ 合唱コンクールや文化祭における発表と活動への支援 ・ 立志式に伴う講演会、記念合唱、アトラクションなどへの支援 3 講演会、鑑賞会等の実施支援 ・ 「いのちの大切さ」出前講座（3学年） ・ 「キャリア教育講演会」 ・ 本物にふれる体験活動 (1) 「日本の伝統文化に触れる会(書道パフォーマンス)」の実施 (2) 青森山田高校新体操部・器械体操部演技会」の開催 4 その他 ・ 学校花壇の整備管理への支援
取組による成果	①体育祭では、マスコットのデザインと作成で生徒たちが工夫を凝らして作成した。 ②文化祭や鑑賞会では地域の人材の活用を図り、えんぶりの発表や郷土芸能の鑑賞を通して地域の文化を学び、生徒の心を豊かにすることができた。 ③講演会や職場体験学習、立志式では、自分を見つめ将来の進路を考えたり、自分の立志をしっかりと考えて発表することができた。 ④本物にふれる体験活動では、著名な方々の実演を目の当たりにして、感動する心を豊かにして今後の自分の生活に活かした。
今後の課題と 取組方針	「特色ある学校経営事業」の継続と工夫により、生徒一人一人がさらに充実した学校生活を送れるよう支援をしていく。

特色ある学校経営事業の経過概要及び効果

南部町立杉沢中学校

校長 高 橋 直 浩

活 動 名 称 (テ ー マ)	杉中はぐくみプラン ～郷土を愛し、郷土のために何かができる自分を育てよう～
現 状	・落ち着いた雰囲気の中で、生徒は生活できている。 ・少人数かつ人間関係も固定化しているため、人前で堂々とした態度を示したり、自信をもって発言することを苦手としている。 ・学区民は、学校の教育活動に対して理解を示し、協力的な人が非常に多い。
目 標	・学校花壇の整備や杉中桜の管理に携わることにより、緑があふれる杉沢中学校に誇りをもつ生徒を育成する。 ・音楽活動を通して、表現力を高め、心豊かな生徒の育成に努める。 ・学校だよりを全戸に回覧し、教育活動について学区民に情報発信することで、地域との連携の強化を図る。
実施年月日	実 施 内 容
毎月月末	①カラー印刷による「杉中だより」を作成し、回覧板で学区全戸に回覧する。
5 月末～	②学校花壇への花苗の植え付けとその後の手入れ作業の実施。
6 月 2 1 日	③杉中桜を学ぶ会で、桜の木に肥料を散布。
7 月上旬～	④グラウンドのトラック部分とテニスコート、校舎周りの砂利への除草剤の散布。
1 0 月 3 日	⑤本校の元校長である野村律子氏による合唱指導。
3 月 4 日 1 2 日 1 3 日	⑥卒業式に向けて、音楽の授業での合唱指導。 卒業式の全校歌唱でのギター伴奏と予行等での歌唱指導の実施。
取組による成果	・花壇の整備や杉中桜を学ぶ会を通して、愛校心が高まった。 ・講師による歌唱指導を通して、多くの生徒が歌うことの楽しさを実感することができた。 ・学区民に学校だより等で学校の様子を積極的に伝えることで、各行事への協力や参加者が昨年よりも増えた。
今後の課題と 取組方針	生徒数の減少により、今後の取組が可能なものであるか、学校として精選する必要がある。本事業の継続と工夫を図り、生徒が充実した学校生活を送れるように支援していきたい。